

シラバス

情報システム技術科 授業計画

令和7年度

熊本県立技術短期大学校

目 次

1. カリキュラム一覧表			
育成項目		p	4
カリキュラム一覧表		p	5
2. 教科 [1年後期]			
一般教養科目			
職業能力基礎演習		p	7
英語Ⅱ		p	8
保健体育Ⅱ		p	9
基礎 ・ 学科科目			
応用数学Ⅰ		p	10
データサイエンス		p	11
計算機工学応用		p	12
プログラミング言語Ⅱ		p	13
ソフトウェア工学		p	14
基礎 ・ 実技科目			
プログラミング言語実習Ⅱ		p	15
専門 ・ 学科科目			
ネットワーク工学		p	16
通信工学		p	17
データベースⅠ		p	18
アルゴリズム		p	19
半導体デバイス工学概論		p	20
人工知能技術Ⅰ		p	21
専門 ・ 実技科目			
Java実習		p	22
データベース実習Ⅰ		p	23
ネットワーク工学実習Ⅰ		p	24
企業実習		p	25
3. 教科 [2年前期]			
一般教養科目			
英語Ⅲ		p	27
基礎 ・ 学科科目			
応用数学Ⅱ		p	28
基礎 ・ 実技科目			
プログラミング言語実習Ⅲ		p	29
専門 ・ 学科科目			
オペレーティングシステム		p	30
情報セキュリティⅠ		p	31
データベースⅡ		p	32
図形処理工学		p	33

目 次

専門 ・ 実技科目

ネットワークプログラミング		p	34
アルゴリズム実習		p	35
データベース実習Ⅱ		p	36
ネットワーク工学実習Ⅱ		p	37
先端情報技術研究		p	38
図形処理工学実習		p	39
マルチメディア工学実習Ⅰ		p	40
マルチメディア工学実習Ⅱ		p	41
人工知能技術Ⅱ		p	42
卒業研究		p	43

4. 教科 [2年後期]

一般教養科目

技術者と社会		p	45
英語Ⅳ		p	46

基礎 ・ 学科科目

生産工学		p	47
------	-------	---	----

基礎 ・ 実技科目

数値計算実習		p	48
ソフトウェア工学実習		p	49
マイコンプログラミング実習		p	50

専門 ・ 学科科目

クラウドシステム		p	51
情報セキュリティⅡ		p	52
画像処理工学		p	53

専門 ・ 実技科目

ネットワーク工学実習Ⅲ		p	54
先端情報工学実習		p	55
画像処理工学実習		p	56
人工知能技術Ⅲ		p	57
卒業研究		p	58

1. カリキュラム一覧表

情報システム技術科

※ 育成項目について

次の1～9の項目は、本学の教育を修了した学生が身につけているべき知識と能力およびその水準を規定したものです。

これらの知識・能力観点は、技術者教育の国際的協定であるワシントン協定が示している12項目の知識・能力（Graduate Attributes）をもとに、本学の教育の特質も加味して9項目にまとめたものです。

本学の授業において、工学の知識だけでなく、社会の要求を解決するためのデザイン能力、コミュニケーション能力、チームワーク能力、技術者倫理など世界の技術系高等教育の標準となる能力の教育が行われていることを示しています。

番号	項目名	知識・能力の概要
1	グローバル力	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
2	技術者倫理	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関することを理解し実行する能力
3	基礎力	数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを応用する能力
4	応用力	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
5	デザイン力	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決する能力
6	コミュニケーション力	論理的な記述力、口頭発表力、討議等の能力
7	継続力	自主的、継続的に学習する能力
8	マネジメント力	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
9	チームワーク力	チームで仕事をするための能力

情報システム技術科

カリキュラム一覧表

区分	厚生労働省基準 教科	R6の本県短大の教科 教科(電子情報技術科)	学科 実技	履修 区分	単位	開講期	育成項目								
							1	2	3	4	5	6	7	8	9
一般教養		キャリア形成	学科	B	2単位	1年前期	○	○	○			◎	○	○	○
		職業能力基礎演習	学科	B	2単位	1年後期	◎	○					○		
		技術者と社会	学科	B	2単位	2年後期		○	◎	○					
		英語Ⅰ	学科	B	2単位	1年前期	◎					○	○		○
		英語Ⅱ	学科	B	2単位	1年後期	◎					○	○		○
		英語Ⅲ	学科	B	2単位	2年前期	◎					○	○		○
		英語Ⅳ	学科	B	2単位	2年後期	◎					○	○		○
		保健体育Ⅰ	学科	B	2単位	1年前期						○	○		◎
		保健体育Ⅱ	学科	B	2単位	1年後期						○	○		◎
		ロジカルライティング	学科	A	1単位	1年前期			○		○	◎	○	○	
系基礎学科		基礎数学Ⅰ	学科	A	2単位	1年前期			◎	○			○		
		基礎数学Ⅱ	学科	B	2単位	1年前期			◎	○			○		
		電子工学概論	基礎物理	学科	B	2単位	1年前期		◎	○	○				
		電気回路	学科	A	2単位	1年前期			◎	○			○	○	
		半導体工学基礎	学科	A	2単位	1年前期			◎	○	○				
		情報数学	データサイエンス	学科	A	2単位	1年後期			○	◎	○			
		応用数学Ⅰ	学科	A	2単位	1年後期			◎	○			○		
		応用数学Ⅱ	学科	A	2単位	2年前期			◎	○			○		
		計算機工学	計算機工学基礎	学科	A	2単位	1年前期			◎	○	○			
		計算機工学応用	学科	A	2単位	1年後期			○	◎	○				
		ソフトウェア工学	プログラミング言語Ⅰ	学科	A	2単位	1年前期			◎	○	○			
		プログラミング言語Ⅱ	学科	A	2単位	1年後期			◎	○		○			
		ソフトウェア工学	ソフトウェア工学	学科	A	2単位	1年後期			◎	○				
		生産工学	生産工学	学科	A	2単位	2年後期	○	○	○				◎	
		安全衛生工学	安全衛生工学	学科	A	2単位	1年前期		○				○		○
系基礎実技		情報数学演習	プログラミング言語実習Ⅲ	実技	B	2単位	2年前期			○	◎	○			
		数値計算実習	実技	B	2単位	2年後期			○	◎	○				
		ソフトウェア工学基本実習	プログラミング言語実習Ⅰ	実技	A	2単位	1年前期			◎	○	○			
		プログラミング言語実習Ⅱ	実技	A	2単位	1年後期			◎	○	○				
		ソフトウェア工学実習	ものづくり入門	実技	A	2単位	2年後期				◎	○	○		○
		ものづくり入門	実技	A	1単位	1年前期	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		計算機工学実習	情報リテラシ	実技	B	2単位	1年前期			◎	○		○		
		論理回路実習	実技	A	2単位	1年前期			◎				○		
		マイコンプログラミング実習	実技	A	2単位	2年後期			○	◎				○	
		安全衛生作業法	安全衛生作業法	実技											
専攻学科		データ通信工学	ネットワーク工学	学科	A	2単位	1年後期			◎	○	○	○		
		通信工学	学科	A	2単位	1年後期			○	◎	○				
		クラウドシステム	学科	B	2単位	2年後期			○	◎				○	
		電子情報工学概論	学科	A	1単位	1年前期	○	◎	○						
		オペレーティングシステム	サーバOS入門	学科	B	2単位	1年前期			◎	○	○			
		オペレーティングシステム	情報セキュリティⅠ	学科	B	2単位	2年前期			○	◎	○			
		情報セキュリティⅠ	学科	A	2単位	2年前期	○	○	◎						
		情報セキュリティⅡ	学科	A	2単位	2年後期	○	○	◎						
		データ工学	データベースⅠ	学科	A	2単位	1年後期			◎	○	○			
		データベースⅡ	学科	A	2単位	2年前期			○	◎	○				
		アルゴリズム	学科	A	2単位	1年後期			◎	○	○	○			
		図形処理工学	図形処理工学	学科	A	2単位	2年前期			○	◎				○
		画像処理工学	学科	A	2単位	2年後期			○	◎					○
		半導体デバイス工学概論	学科	B	2単位	1年後期			○	◎	○				
		人工知能技術Ⅰ	学科	B	2単位	1年後期			◎	○	○	○		○	○
専攻実技		ソフトウェア工学実習	Java実習	実技	B	4単位	1年後期			◎	○	○			
		ネットワークプログラミング	実技	B	2単位	2年前期			◎	○					
		アルゴリズム実習	実技	A	2単位	2年前期			○	◎					
		ネットワーク工学実習Ⅲ	実技	A	2単位	2年後期			○	◎					○
		情報工学実習	データベース実習Ⅰ	実技	A	2単位	1年後期			◎	○	○			
		データベース実習Ⅱ	実技	A	2単位	2年前期			○	◎	○				
		データ通信実習	ネットワーク工学実習Ⅰ	実技	A	2単位	1年後期			◎	○				○
		ネットワーク工学実習Ⅱ	実技	A	2単位	2年前期			○	◎					○
		図形処理工学実習	実技	A	2単位	2年前期			○	◎					○
		画像処理工学実習	実技	A	2単位	2年後期				◎		○		○	
		マルチメディア工学実習Ⅰ	実技	A	2単位	2年前期			○	◎					
		マルチメディア工学実習Ⅱ	実技	A	2単位	2年前期			○	◎					
		人工知能技術Ⅱ	実技	B	2単位	2年前期			○	◎	○	○		○	○
		人工知能技術Ⅲ	実技	B	2単位	2年後期			○	◎	○	○		○	○
		電気回路実習	実技	A	2単位	1年前期			◎						○
		半導体工学実習	実技	A	2単位	1年前期			◎	○	○	○		○	
		電子機器組立て入門	実技	B	2単位	1年前期			◎						
		先端情報技術研究	実技	B	4単位	2年前期				○	◎	○	○	○	○
		先端情報工学実習	実技	B	2単位	2年後期				○	◎	○	○	○	○
		企業実習	実技	A	4単位	1年後期	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		卒業研究(4)	実技	A	4単位	2年前期	○	○	○	◎	○	○	○	○	○
		卒業研究(12)	実技	A	12単位	2年後期	○	○	○	◎	○	○	○	○	○

2. 教科 [1年後期]

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼	
職業能力基礎演習				情報システム技術科		B		2	
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼	
ジョブカフェくもと				時間講師室		1年後期		一般教養	
授業概要		本科目は、職業能力基盤となる基礎的能力を向上させることができます。職業に就くために必要なことはまず採用試験で内定を得る必要があります。その採用試験では、職業能力の基盤ができているかが問われることになります。そのため、履歴書の作成や採用試験での小論文作成、面接などの練習は、職業能力の基盤を作る上で重要です。そこで、この科目では、履歴書、小論文や面接などの練習を通じて、社会人としての基礎的能力の向上を支援します。							
授業目標		1. 自己分析を行い、自己をPRすることができる。 2. 企業分析を行い、志望動機を説明することができる。 3. テーマに沿った小論文を論理的な文章で作成することができる。							
育成能力項目		◎	グローバル力			◎	応用力	○	継続力
		○	技術者倫理				デザイン力		マネージメント力
			基礎力				コミュニケーション力		チームワーク力
科目No.	厚生労働省基準 ▼								訓練時間
①	区 分	一般教養	教 科						36
②	区 分		教 科						0
③	区 分		教 科						0
授 業 計 画									
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.
1	復習	キャリア形成で学んだことを復習、この科目の趣旨の理解		①	10	模擬面接(2)	修正した履歴書に基づき模擬面接		①
2	履歴書作成(1)	志望企業の選び方		①	11	履歴書作成(6)	模擬面接を受けて、履歴書の修正		①
3	履歴書作成(2)	企業を選びその特色を理解		①	12	小論文(1)	テーマ提示と例文紹介		①
4	履歴書作成(3)	志望動機の徹底分析(自分と企業)		①	13	小論文(2)	小論文を書く(テーマ1:「将来なにがしたいか」)		①
5	履歴書作成(4)	自己分析(性格、価値観、職業観、体験、趣味、特技など)		①	14	小論文(3)	小論文を書く(テーマ2:「10年後の私」)		①
6	履歴書作成(5)	自己分析(自分史)		①	15	小論文(4)	小論文の添削事例紹介		①
7	履歴書作成(6)	今までの分析結果を利用して履歴書作成		①	16	模擬面接(3)	教員との模擬面接(1)		①
8	模擬面接(1)	グループワーク(学生同士で模擬面接)		①	17	模擬面接(4)	教員との模擬面接(2)		①
9	履歴書作成(7)	模擬面接を受けて、履歴書の修正		①	18	総括	就職活動についての説明とこの講義の総括		①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計	
		100%	—	—	—	—	—	100%	
		注意事項	レポートが提出されない場合には、単位を取得することができません。						
関連科目		キャリア形成							
使用教科書		自作テキスト、自作問題集							
参 考 書		①「マイロード21」 就職指導研究会 著 実教出版 ②「就職四季報」 東洋経済新報社							
学生へのメッセージ		本講義を通して、皆さん方が将来にわたりより良い職業生活・社会生活をおくることができるよう、様々な演習を用意しています。まずは、志望する企業への内定を勝ち取るために色々な観点から自分のスキルアップを図ってください。併せて、社会人としての基本的マナーに気づいていただければこれから人生を有意義に過ごすことができるものと確信します。							

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼			履修区分 ▼		単位数 ▼		
英語Ⅱ			Ⅰ 群[機械]・Ⅱ 群[電子・情報]			B		2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼			開 講 期 ▼		区 分 ▼		
丸野・林・井上・吉井			時間講師室			1年後期		一般教養		
授業概要		英語Ⅱに引き続き、中学・高校で学んできた英文法を総復習し、英語力の基礎を再確認します。ペア/グループワーク、様々なアクティビティを通じて、前期で培ったコミュニケーション力を更に高めていきます。								
授業目標		1. 恥ずかしがらずに正しい英語を真似しながら発音することが出来る。 2. 一方通行ではなく、聞き返したりしながら会話のキャッチボールが出来る。 3. 定期的にVELCテスト(英語力診断テスト)を受けることによって、英語力の向上や弱点などについて自身で確認出来る。								
育成能力項目		◎	グローバル力			応用力		○	継続力	
			技術者倫理			デザイン力			マネージメント力	
			基礎力		○	コミュニケーション力		○	チームワーク力	
科目No.	厚生労働省基準 ▼								訓練時間	
①	区 分	一般教養	教 科						36	
②	区 分		教 科						0	
③	区 分		教 科						0	
授 業 計 画										
授業項目			内容概略		科目No.	授業項目			内容概略	科目No.
1	接続詞	シラバスの説明・If Animals Could Talk 【単語テスト⑭】			①	10	助動詞	You Must Be Home by Eleven 【単語テスト⑳】		①
2	現在完了	Been There, Done That 【確認テスト⑮】			①	11	確認テスト5	Unit16からUnit19について確認		①
3	時を表す前置詞	It Starts at Eight 【単語テスト⑯】			①	12	Review	確認テスト5についてReview 【単語テスト㉑】		①
4	動名詞/不定詞	Studying Can Be Tiring 【単語テスト⑰】			①	13	可算名詞/不可算名詞	A Burger and Fries 【単語テスト㉒】		①
5	確認テスト4	Unit12からUnit15について確認			①	14	形容詞の比較級/最上級	Mom's Cheesecake is Better 【単語テスト㉓】		①
6	Review	確認テスト4についてReview 【単語テスト⑱】			①	15	受動態	It's Made from Soy		①
7	will / be going to	I Think I'll Go Shopping 【単語テスト⑲】			①	16	総復習	定期試験前の演習・質疑応答		①
8	形容詞	A Cute Little Nose 【単語テスト㉔】			①	17	定期試験	定期試験実施		①
9	副詞	He Speaks Romantically 【単語テスト㉕】			①	18	総括	定期試験評価及び講評		①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計		
		—	60%	—	—	10%	30%	100%		
		注意事項								
関連科目		英語Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ								
使用教科書		①「English Charge! 大学英文法徹底トレーニング」 著者 Robert Hickling・市川泰弘 金星堂 ②「TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ」 著者 TEX加藤 朝日新聞出版								
参 考 書										
学生へのメッセージ		英語の上達はどんどん話すことからです。クラスメイトとコミュニケーションを取りながら、たくさんの英語を使ってみましょう。								

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼			履修区分 ▼		単位数 ▼	
保健体育Ⅱ			Ⅰ 群[機械]・Ⅱ 群[電子・情報]			B		2	
担 当 教 員			代表教員室 ▼			開 講 期 ▼		区 分 ▼	
平野 龍 ・ 金子 智哉			時間講師室			1年後期		一般教養	
授業概要		本授業は、運動やスポーツの理論と実践を通して、身体を動かすことの楽しさや健康づくりについて学習します。特に保健体育Ⅱに関してはグラウンドを使用し、ベースボール型、ゴール型のスポーツやまたニュースポーツなどの新たなスポーツへも取り組み、その理論や実践について学習します。							
授業目標		1. 生涯にわたってスポーツ・運動に親しむことができるようにスポーツ・運動に対しての理解を深めることができる。 2. スポーツ・運動を通して、健康・体力の維持増進を図ることができる。 3. 授業の準備や道具の整理など、率先して自分たちで環境の設定ができる。							
育成能力項目		グローバル力		応用力		○	継続力		
		技術者倫理		デザイン力			マネージメント力		
		基礎力		○	コミュニケーション力		◎	チームワーク力	
科目No.	厚生労働省基準 ▼							訓練時間	
①	区 分	一般教養	教 科					36	
②	区 分		教 科					0	
③	区 分		教 科					0	
授 業 計 画									
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.
1	ベースボール型スポーツ	シラバスの説明・ベースボール型のスポーツの理論と実践1		①	10	ゴール型ニュースポーツ	ゴール型ニュースポーツの理論と実践		①
2	ベースボール型スポーツ	ベースボール型のスポーツの理論と実践1(ニュースポーツの体験)		①	11	ゴール型スポーツ	ゴール型スポーツの理論と実践		①
3	ベースボール型スポーツ	ベースボール型のスポーツの理論と実践2 スコアの付け方など		①	12	ゴール型スポーツ	ゴール型スポーツの理論と実践		①
4	ベースボール型スポーツ	ベースボール型のスポーツの理論と実践2 スコアの付け方など		①	13	ゴール型スポーツ	ゴール型スポーツの理論と実践		①
5	ベースボール型スポーツ	ベースボール型のスポーツの理論と実践2 スコアの付け方など		①	14	ゴール型スポーツ	ゴール型スポーツの理論と実践		①
6	ベースボール型スポーツ	ベースボール型のスポーツの理論と実践2 スコアの付け方など		①	15	ゴール型スポーツ	ゴール型スポーツの理論と実践		①
7	ゴール型ニュースポーツ	ゴール型ニュースポーツの理論と実践		①	16	総復習	定期試験前の演習・質疑応答		①
8	ゴール型ニュースポーツ	ゴール型ニュースポーツの理論と実践		①	17	定期試験	定期試験実施		①
9	ゴール型ニュースポーツ	ゴール型ニュースポーツの理論と実践		①	18	総括	定期試験評価及び講評		①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計	
		—	—	—	10%	60%	30%	100%	
		注意事項	その他とは、出席、授業への参加意欲、態度などで評価する						
関連科目									
使用教科書		座学時はプリントを配布する							
参 考 書									
学生へのメッセージ		授業を通してスポーツの良さや楽しさ、また健康維持や体力を高める事など実践を通して学んでください。将来健康的な生活を送る1つのツールとなるように、これまで体験したことのないようなニュースポーツなどもの実践も取り入れていますので、積極的に参加し自分にあった運動やスポーツを見つけて欲しいと思います。							

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼	
応用数学Ⅰ				情報システム技術科		A		2	
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼	
岡 智典				教員室Ⅱ		1年後期		基礎・学科	
授業概要		情報処理系の数理構造を学ぶ上での基礎となる、線形代数学について学びます。基礎数学Ⅱに引き続き、画像処理、通信技術などに用いられる行列に関して学びます。							
授業目標		1. 行列式を求めることができる。 2. 固有値と固有ベクトルの計算ができる。 3. 行列の対角化について理解を深め、計算・応用することができる。							
育成能力項目		グローバル力	○	応用力	○	継続力			
		技術者倫理		デザイン力		マネジメント力			
		◎ 基礎力		コミュニケーション力		チームワーク力			
科目No.	厚生労働省基準 ▼							訓練時間	
①	区 分	一般教養	教 科	情報数学				36	
②	区 分		教 科					0	
③	区 分		教 科					0	
授 業 計 画									
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.
1	講義概要	行列の定義と演算		①	10	線形写像	線形写像、回転行列		①
2	逆行列(1)	転置行列、2次の逆行列		①	11	固有値と固有ベクトル(1)	固有値と固有ベクトル		①
3	階数と連立1次方程式	連立1次方程式とガウスの消去法		①	12	固有値と固有ベクトル(2)	対称行列の対角化		①
4	行列式	行列式、クラメルの公式		①	13	固有値と固有ベクトル(3)	2次形式と対角化		①
5	逆行列(2)	ガウスの消去法と3次の逆行列		①	14	問題演習(1)	ベクトル空間の演習(1)		①
6	行列演算のまとめ(1)	連立1次方程式と行列演算のまとめ		①	15	問題演習(2)	ベクトル空間の演習(2)		①
7	中間試験			①	16	総復習			①
8	行列演算のまとめ(2)	行列演算のまとめと応用		①	17	定期試験			①
9	ベクトル空間	線形独立、線形従属		①	18	総括	定期試験解説		①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計	
		—	35%	30%	—	—	35%	100%	
		注意事項							
関連科目		基礎数学Ⅱ、図形処理工学、図形処理工学実習、数値計算実習							
使用教科書		①「大学新入生のための線形代数入門」 著者 石村 園子 共立出版							
参考書		①「線形代数学」 佐竹一郎 裳華房 ②「工科の数学 線形代数」 田代嘉宏 森北出版							
学生へのメッセージ		本講義は、基礎数学Ⅱがベースになります。前期からしっかりと取り組んでおいて下さい。また、線形代数学は画像処理、通信技術などに用いられ基礎となりますので、しっかりとマスターしましょう。数学は、技術者にとっての共通言語です。この講義は、情報システム技術科の他の科目とも深く関係しているため、十分な復習を行い、理解が浅いと思われる分野については、随時、講師に質問して下さい。加えて、復習だけではなく、予習を必ず行って下さい。							

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼		
データサイエンス				情報システム技術科		A		2		
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼		
岡 智典				教員室Ⅱ		1年後期		基礎・学科		
授業概要		情報処理、品質管理を理解する上で必要となる、確率統計の基礎的な分野を学習します。場合の数をかぞえる離散的な確率、正規分布などの連続的な確率などについて、確率変数や密度関数などとともに説明し、その応用として区間推定、仮説の検定を学習します。								
授業目標		1. 集合、場合の数、組合せなどを理解し、計算できる。 2. 与えられた情報に対する代表値や散布値を計算できる。 3. 代表的な分布について理解し、確率を計算できる。								
育成能力項目		グローバル力	○	応用力	○	継続力				
		技術者倫理		デザイン力		マネージメント力				
		◎ 基礎力		コミュニケーション力		チームワーク力				
科目No.		厚生労働省基準 ▼							訓練時間	
①	区 分	一般教養	教 科						36	
②	区 分		教 科						0	
③	区 分		教 科						0	
授 業 計 画										
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.	
1	確率の基礎(1)	集合、場合の数、順列、組合せ		①	10	確率分布(1)	二項分布		①	
2	確率の基礎(2)	確率の基本性質		①	11	確率分布(2)	正規分布		①	
3	確率の基礎(3)	確率の加法定理		①	12	標本調査	標本平均、中心極限定理		①	
4	確率の基礎(4)	独立試行と反復試行		①	13	区間推定	母平均の推定		①	
5	条件付確率(1)	条件付確率の定義		①	14	仮説検定(1)	正規分布による母平均の検定		①	
6	条件付確率(2)	ベイズの定理		①	15	仮説検定(2)	t分布による母平均の検定、母比率の検定		①	
7	1次元のデータ解析(1)	度数分布とヒストグラム、代表値		①	16	総復習			①	
8	小テスト、1次元のデータ解析(2)	小テスト、箱ひげ図、標準偏差		①	17	定期試験			①	
9	2次元のデータ解析	相関係数、回帰直線		①	18	総括	定期試験解説		①	
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計		
		—	20%	30%	—	—	50%	100%		
		注意事項								
関連科目		基礎数学Ⅰ・Ⅱ、工業力学Ⅰ、生産工学								
使用教科書		「新版数学シリーズ 新版確率統計」 著者 岡本和夫 実教出版								
参 考 書		「数理統計学」 稲垣宣夫著 裳華房								
学生へのメッセージ		確率統計学の基本的な事柄について学習し、データ解析の演習を行います。								

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼		
計算機工学応用				情報システム技術科		A		2		
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼		
佐藤 正幸				時間講師室		1年後期		基礎・学科		
授業概要		「計算機アーキテクチャ」とはハードウェアと命令(プログラム)が相互にどのような関係にあるのか、コンピュータの仕組みを学ぶ学問です。本講義では「計算機アーキテクチャⅠ」で学ぶ計算機の仕組みの知識を基礎とし、計算機システムの基本構成、構成要素の役割と動作について学びます。また、計算機上で種々のデータがどのように表現され、処理されるか、情報処理技術者として計算機システムを理解する上で必要となる事項について学びます。								
授業目標		1. コンピュータシステムの構成要素が理解できる。 2. コンピュータで取り扱うデータ表現を理解できる。 3. コンピュータの動作手順が理解できる。								
育成能力項目		グローバル力		◎	応用力			継続力		
		技術者倫理		○	デザイン力			マネジメント力		
		基礎力		○	コミュニケーション力			チームワーク力		
科目No.		厚生労働省基準 ▼							訓練時間	
①	区 分	系基礎学科	教 科	計算機工学				36		
②	区 分		教 科					0		
③	区 分		教 科					0		
授 業 計 画										
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.	
1	基数	基数と基数変換		①	10	プロセッサ(3)	命令レジスタ、命令カウンタ、アキュムレータ、演算機構などのCPU内の動きを知る		①	
2	数値表現	2進数、16進数などを学ぶ		①	11	プロセッサ(4)	命令レジスタ、命令カウンタ、アキュムレータ、演算機構などのCPU内の動きを知る		①	
3	算術演算	浮動小数点表現と精度を学ぶ		①	12	入出力	入出力インタフェースの仕組みと利用方法を学ぶ		①	
4	集合	AND、OR、排他的論理和について学ぶ		①	13	補助記憶装置	ハードディスクなどの記憶メディアの種類について学ぶ		①	
5	構成要素	コンピュータの構成要素について学ぶ		①	14	システム	コンピュータシステムの利用形態について学ぶ		①	
6	メモリ(1)	ROMやRAMなどメモリの種類と特徴について学ぶ		①	15	性能	コンピュータシステムの性能評価について学ぶ		①	
7	メモリ(2)	メインメモリの読み出し、書き込み、キャッシュの働きについて学ぶ		①	16	総復習	定期試験前の質問対応、レポート返却等		①	
8	プロセッサ(1)	RISC、CISCのワイヤドロジック方式、マイクロプログラム方式を学ぶ		①	17	定期試験			①	
9	プロセッサ(2)	RISC、CISCのワイヤドロジック方式、マイクロプログラム方式を学ぶ		①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評		①	
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計		
		—	—	—	—	40%	60%	100%		
		注意事項								
関連科目		プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、計算機工学基礎、オペレーティングシステム								
使用教科書		①「コンピュータシステムの基礎 第6版」 鈴木衛 電子開発学園出版局								
参 考 書		①「図解コンピュータアーキテクチャ入門」 堀桂太郎 森北出版								
学生へのメッセージ		今日、コンピュータシステムに触れたことのない人はいないでしょう。しかし、その仕組みを問われれば多くの人は回答に困るのではないのでしょうか。情報処理の技術者を目指す学生にとって、コンピュータシステムの仕組みを理解することは必要であり、理解していないと優れたプログラムが組めない、優れたシステムが設計できない場合が多々あります。本講義の内容を理解し、他の関連科目の学習に役立てて下さい。								

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼	
プログラミング言語Ⅱ				情報システム技術科		A		2	
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼	
木庭 寛和				時間講師室		1年後期		基礎・学科	
授業概要		本科目は、プログラミング言語Ⅰから引き続きC言語の文法や構造の基礎を学び、課題を解決するためのプログラム記述の基本手法を学習します。具体的には、ポインタと配列(文字列)の関係など応用的な部分を学びます。実際のプログラムでは、頻繁に用いられるファイル処理や動的な記憶領域の確保などのより実践的な内容を、例題プログラムを通じて学習します。							
授業目標		1. ポインタと配列の関係について説明できる。 2. 構造体を使用する利点および使い方が説明できる。 3. ファイルポインタおよびfopen関数の使い方が説明できる。							
育成能力項目		グローバル力		○	応用力			継続力	
		技術者倫理			デザイン力			マネジメント力	
		◎	基礎力		○	コミュニケーション力			チームワーク力
科目No.	厚生労働省基準 ▼								訓練時間
①	区 分	系基礎学科	教 科	ソフトウェア工学					36
②	区 分		教 科						0
③	区 分		教 科						0
授 業 計 画									
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.
1	復習	基本的文法(型、変数、配列、繰り返し文など)の復習		①	10	エラー(1)	構文エラーと意味的エラーの違いを認識し、その検証方法を学ぶ		①
2	ポインタの基礎	アドレスについてどのように実装され、どのように使われているか学ぶ		①	11	エラー(2)	エラー処理の重要性を学び、具体的な事例をもとにエラー処理の実装について学ぶ		①
3	ポインタの応用	関数の参照渡しについて学ぶ		①	12	型変換、再帰呼び出し	型変換、voidポインタ、再帰呼び出しについて学ぶ		①
4	文字列とポインタ(1)	文字列の処理について基本を学ぶ		①	13	線形リストの基礎	線形リストの基本的考え方、実装方法について学ぶ(構造体、ポインタの復習)		①
5	文字列とポインタ(2)	文字列の処理についてポインタとの関連を理解する		①	14	線形リストの実装	線形リストを指示通りに実装させ、復習させる		①
6	構造体	構造体の実装とその役割について学ぶ		①	15	線形リストの応用	線形リストを用いた応用プログラムを理解する		①
7	列挙型	列挙型の使用例を学ぶ		①	16	総復習	定期試験前の質問対応		①
8	ファイル入出力	ファイル入出力について方法と注意点を学ぶ		①	17	定期試験			①
9	中間試験			①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評		①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計	
		—	40%	—	—	—	60%	100%	
		注意事項							
関連科目		プログラミング言語Ⅰ、プログラミング言語実習Ⅰ、プログラミング言語実習Ⅱ、アルゴリズム実習、Java実習、画像処理工学、画像処理工学実習							
使用教科書		自作テキスト、自作問題集							
参 考 書		①「新版 明解C言語 入門編」柴田望洋 ソフトバンクパブリッシング ②「独習C 第3版」ハーバート・シルト著 トップスタジオ訳 柏原正三監修 翔泳社							
学生へのメッセージ		この講義は、情報システム技術科の他の科目とも深く関係しているため、十分な復習を行い、理解が浅いと思われる分野については、随時、講師に質問して下さい。加えて、復習だけではなく、予習を必ず行って下さい。予習・復習の目安として60時間の自学を行って下さい。							

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼		
ソフトウェア工学			情報システム技術科		A	2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼		
宮川真理子 ・ 吉田良尚			時間講師室		1年後期	基礎・学科		
授業概要		まず、ソフトウェア工学の概要、歴史に触れ、ソフトウェア工学の必要性や目的について学びます。そして、ソフトウェアの各開発プロセス(設計・コーディング・テスト・デバッグ)において必要となる考え方や立ち居振る舞いについて、ソフトウェア工学の見地から学びます。また、IT業界のベストプラクティスとして採用されている、SWEBOKなどの知識体系の概要、およびビジネスの現場で必要とされる各種の法的知識やコンプライアンス(法令遵守)についても学びます。						
授業目標		1. ソフトウェア工学の必要性や目標を適切に説明できる。 2. 開発モデルにおいて、代表的なものを挙げられるとともに、それぞれの特徴を説明できる。 3. ウォーターフォールモデルについて、開発工程の流れと各工程の内容を説明できる。						
育成能力項目		グローバル力	○	応用力	継続力			
		技術者倫理		デザイン力	マネジメント力			
		◎ 基礎力		コミュニケーション力	チームワーク力			
科目No.	厚生労働省基準 ▼					訓練時間		
①	区 分	系基礎学科	教 科	ソフトウェア工学		36		
②	区 分		教 科			0		
③	区 分		教 科			0		
授 業 計 画								
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目 内容概略 科目No.			
1	ソフトウェア工学とは	シラバスの説明、ソフトウェア工学の目標と必要性		①	10 要件定義(2)	インタフェース設計、組込み型、AI応用技術、性能予測値と実績値、他 ①		
2	ソフトウェアライフサイクル	ソフトウェアの誕生から一生を終えるまで		①	11 設計／コーディング	プロセス指向アプローチ、データ指向アプローチ、コーディング ①		
3	ソフトウェア分析(1)	ソフトウェアを「見える化」するための手法		①	12 テスト手法(1)	ブラックボックステスト、ホワイトボックステスト、テストカバレッジ ①		
4	ソフトウェア分析(2)	ファンクションポイント法		①	13 テスト手法(2)	閾値・最大値・最小値のテスト、動機的原因の追及と再発防止策、失敗事例 ①		
5	開発プロセス(1)	ウォーターフォール、スパイラル、反復型		①	14 デバッグ	リアクティブアプローチ、プロアクティブアプローチ ①		
6	開発プロセス(2)	アジャイル、開発手法の使い分け、リスク駆動型開発プロセス		①	15 SWEBOK/特許/法律/各種の規格との関連	ソフトウェアエンジニアリングにおける知識体系、知的財産権、システム開発の関連法規、ベストプラクティス ①		
7	モデリング(1)	統一モデリング言語(UML)、UML図		①	16 総復習	定期試験前の質問対応、レポート返却等 ①		
8	モデリング(2)	各図の説明		①	17 定期試験	筆記試験 ①		
9	要件定義(1)	要件定義の意味、論理設計(機能設計)、物理設計(詳細設計)		①	18 総括	定期試験の解説、学期を通じての講評 ①		
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計
		—	—	—	—	—	100%	100%
		注意事項						
関連科目		ソフトウェア工学実習、アルゴリズム、計算機工学、データベースⅠ、データベースⅡ						
使用教科書		①「実践的ソフトウェア工学 第2版」 浅井治著 近代科学社						
参 考 書								
学生へのメッセージ		この講義ではシステム設計・開発手法を学びます。これはSE/プログラマの仕事がどのようなことをするかを知ることにもつながります。他の授業で学んでいる知識が実際にどのような場面で使われるかも理解することができると考えています。SEやプログラマにならない人にとっても、製品開発のプロセスとの共通する点も多いので、積極的に取り組み、社会人になったときに、ぜひこの講義で学んだことを活かして欲しいと思います。						

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼		
プログラミング言語実習Ⅱ			情報システム技術科		A	2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼		
木庭 寛和			時間講師室		1年後期	基礎・実技		
授業概要			本科目は、プログラミング言語Ⅰから引き続きC言語の文法や構造の基礎を学び、課題を解決するためのプログラム記述の基本手法を学習します。具体的には、ポインタと配列(文字列)の関係など応用的な部分を学びます。実際のプログラムでは、頻繁に用いられるファイル処理や動的な記憶領域の確保などのより実践的な内容を、プログラム作成を通じて学習します。					
授業目標			1. ポインタを使った簡単なプログラムが作成できる。 2. 構造体を使った簡単なプログラムが作成できる。 3. ファイルポインタを使ったファイル入出力処理を行うプログラムが作成できる。					
育成能力項目			グローバル力	○	応用力	継続力		
			技術者倫理		デザイン力	マネジメント力		
			◎ 基礎力	○	コミュニケーション力	チームワーク力		
科目No.	厚生労働省基準 ▼						訓練時間	
①	区 分	系基礎実技	教 科	ソフトウェア工学基本実習			36	
②	区 分		教 科				0	
③	区 分		教 科				0	
授 業 計 画								
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略	科目No.
1	復習	基本的文法(型、変数、配列、繰り返し文など)の復習		①	10	エラー(1)	構文エラーと意味的エラーの違いを認識し、その検証方法を学ぶ	①
2	ポインタの基礎	アドレスについてどのように実装され、どのように使われているか学ぶ		①	11	エラー(2)	エラー処理の重要性を学び、具体的な事例をもとにエラー処理の実装について学ぶ	①
3	ポインタの応用	関数の参照渡しについて学ぶ		①	12	型変換、再帰呼び出し	型変換、voidポインタ、再帰呼び出しについて学ぶ	①
4	文字列とポインタ(1)	文字列の処理について基本を学ぶ		①	13	線形リストの基礎	線形リストの基本的考え方、実装方法について学ぶ(構造体、ポインタの復習)	①
5	文字列とポインタ(2)	文字列の処理についてポインタとの関連を理解する		①	14	線形リストの実装	線形リストを指示通りに実装させ、復習させる	①
6	構造体	構造体の実装とその役割について学ぶ		①	15	線形リストの応用	線形リストを用いた応用プログラムを実装させる	①
7	列挙型	列挙型の使用例を学ぶ		①	16	総復習	定期試験前の質問対応	①
8	ファイル入出力	ファイル入出力について方法と注意点を学ぶ		①	17	定期試験		①
9	中間試験			①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評	①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計
		—	40%	—	—	—	60%	100%
		注意事項						
関連科目		プログラミング言語Ⅰ、プログラミング言語実習Ⅰ、プログラミング言語Ⅱ、アルゴリズム実習、Java実習、画像処理工学、画像処理工学実習						
使用教科書		自作テキスト、自作問題集						
参 考 書		①「新版 明解C言語 入門編」柴田望洋 ソフトバンクパブリッシング ②「独習C 第3版」ハーバート・シルト著 トップスタジオ訳 柏原正三監修 翔泳社						
学生へのメッセージ		この講義は、情報システム技術科の他の科目とも深く関係しているため、十分な復習を行い、理解が浅いと思われる分野については、随時、講師に質問して下さい。加えて、復習だけではなく、予習を必ず行って下さい。予習・復習の目安として60時間の自学を行って下さい。						

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼		
ネットワーク工学			情報システム技術科		A	2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼		
坂田 聡			教員室Ⅱ		1年後期	専門・学科		
授業概要		インターネットの普及により、専門的な情報システムだけではなく、家庭や個人でもネットワークを利用しなければ生活ができないほどになりました。本講義では、コンピュータネットワークの基礎となるデータ通信手順(プロトコル)やネットワーク構築技術について学びます。特に、インターネットで使われるプロトコル、TCP/IPの技術を中心に学びます。						
授業目標		1. OSI参照モデルやTCP/IP階層モデルの関係と各階層の役割について説明できる。 2. IPルーティングの概要と設定手法について説明できる。 3. TCPとUDPの特徴と違いについて説明できる。						
育成能力項目		グローバル力	○	応用力	継続力			
		技術者倫理	○	デザイン力	マネジメント力			
		◎ 基礎力	○	コミュニケーション力	チームワーク力			
科目No.	厚生労働省基準 ▼					訓練時間		
①	区 分	専攻学科	教 科	データ通信工学		36		
②	区 分		教 科			0		
③	区 分		教 科			0		
授 業 計 画								
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目			
1 講義概要		講義の目的と成績評価、コンピュータネットワーク全般		①	10 データリンク層(1)	MACアドレスとEthernetにおけるデータの配送		
2 コンピュータの基礎(1)		パラレル通信とシリアル通信、全二重通信と半二重通信		①	11 データリンク層(2)	リピータハブとスイッチングハブの違い、スイッチングハブの学習		
3 コンピュータの基礎(2)		バッファ、キューとスタック、キャッシュ		①	12 ネットワーク層(1)	IPの概要、IPアドレスとサブネットワーク		
4 コンピュータの基礎(3)		データの2進数表現、ビッグエンディアンとリトルエンディアン		①	13 ネットワーク層(2)	ルーティングテーブルに基づくルーティングとデフォルトルート		
5 ネットワーク基礎(1)		ノードとリンクとトポロジ、データリンク技術とインターネットワーキング技術		①	14 トランスポート層	TCPとUDPの概要、UDPの役割、TCPの役割、TCPにおける信頼性の提供		
6 ネットワーク基礎(2)		パケット交換と回線交換、ユニキャストとマルチキャスト		①	15 TCP/IPアプリケーション	ネットワークアプリケーション、Web、電子メール		
7 ネットワーク基礎(3)		TCP/IPの階層化原理とOSI参照モデル		①	16 総復習	定期試験前の質問対応、レポート返却等		
8 ネットワーク基礎(4)		ネットワークの性能とスループット		①	17 定期試験			
9 中間試験				①	18 総括	定期試験の解説、学期を通じての講評		
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計
		—	50%	—	—	—	50%	100%
		注意事項 その他では小テストを実施する。						
関連科目		ネットワーク工学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、情報リテラシ、クラウドシステム						
使用教科書		①「基礎からわかるTCP/IP ネットワークコンピューティング入門 第3版」村山公保 オーム社						
参 考 書		①「マスタリングTCP/IP 入門編 第5番」竹下隆史 他 オーム社						
学生へのメッセージ		身近になったコンピュータネットワークではありますが、いざその仕組みとなるとなかなか理解するのは困難です。特に、OSI参照モデルやTCP/IP階層モデルは概念的なことがらなので、なかなかイメージがつかみにくいかもしれません。別途開講されるネットワーク工学実習等での実体験と、本講義の理論を併せて経験することで、深い理解が得られると思います。						

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼		
通信工学				情報システム技術科		A		2		
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼		
坂田 聡				教員室Ⅱ		1年後期		専門・学科		
授業概要		アナログ情報を伝送する仕組み、およびデジタル情報を伝送する仕組みを理解します。また、同一の通信メディアによって複数の伝送を多重化する方法を理解します。無線LANを中心に無線通信についても学びます。								
授業目標		1. アナログ伝送について理解する。 2. デジタル伝送について理解する。 3. 多重化について理解する。								
育成能力項目		グローバル力		◎	応用力		継続力			
		技術者倫理		○	デザイン力		マネジメント力			
		基礎力		○	コミュニケーション力		チームワーク力			
科目No.	厚生労働省基準 ▼							訓練時間		
①	区 分	専攻学科	教 科	データ通信工学				36		
②	区 分		教 科					0		
③	区 分		教 科					0		
授 業 計 画										
授業項目			内容概略		科目No.	授業項目			内容概略	科目No.
1	ガイダンス	全体説明		①	10	中間試験	前半の内容について筆記試験		①	
2	無線伝送とは(1)	電波の周波数、波長、および速度 波形整形とフィルタ		①	11	複数アンテナの 利用	MIMO、ビームフォーミング		①	
3	無線伝送とは(2)	雑音と非線形歪み アナログ変調、デジタル変調		①	12	ネットワーク技術 (1)	ヘテロジニアスネットワーク		①	
4	電波のエネルギー	電場と磁場 マクスウェルの方程式		①	13	ネットワーク技術 (2)	リレー通信		①	
5	アンテナ	アンテナの放射特性 アンテナの基本性能		①	14	無線通信(1)	光ファイバ通信の基礎		①	
6	電波の受送信	固定通信と移動通信		①	15	無線通信(2)	無線信号の光ファイバ伝送		①	
7	移動通信	セル方式と位置登録		①	16	総復習	定期試験前の質問対応、レポート返却等		①	
8	多重化	多重化と多重分離 多元接続		①	17	定期試験			①	
9	双方向通信	FDD、TDD		①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評		①	
評価方法と 評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計		
		—	50%	—	—	—	50%	100%		
		注意事項								
関連科目		ネットワーク概論、ネットワーク工学、ネットワーク工学実習Ⅰ・Ⅱ、ネットワークプログラミング、情報セキュリティⅠ・Ⅱ、クラウドシステム								
使用教科書		自作テキスト								
参 考 書		①「光・情報通信ネットワーク」 古賀広昭・下塩義文・井手口健 森北出版 ②「無線・移動通信工学の基礎」 大塚裕幸 オーム社								
学生への メッセージ		アナログ通信またはデジタル通信に係る基礎技術について、網羅的に学習します。基礎知識として、電気回路、電子回路、論理回路の理解が不可欠なので、適宜復習しながらの学習を推奨します。								

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼		
データベース I			情報システム技術科		A	2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼		
古 橋 徹			時間講師室		1年後期	専門・学科		
授業概要		情報システムにおいて、安心して大量のデータを取り扱う場合には、リレーショナルデータベースマネジメントシステム (RDBMS) の活用が避けられません。近年、欠かすことのできない存在となっているデータベースに関して、データベースモデル、データベース言語 (SQL)、トランザクションおよびデータベース管理など、基本構造や原理について学ぶ。						
授業目標		1. データベースの基本概念が説明できる。 2. 基本的なSQL文が作成できる。 3. データベース設計における正規化の意義を理解し、第三正規化が行える。						
育成能力項目		グローバル力	○	応用力		継続力		
		技術者倫理	○	デザイン力		マネジメント力		
		◎ 基礎力		コミュニケーション力		チームワーク力		
科目No.	厚生労働省基準 ▼						訓練時間	
①	区 分	専攻学科	教 科	データ工学			36	
②	区 分		教 科				0	
③	区 分		教 科				0	
授 業 計 画								
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略	科目No.
1	導入	シラバスの説明、データベースとは		①	10	データベース構成法 (1)	磁気ディスク、RAID、バッファ管理	①
2	データベースの基本概念	データベース管理ステム、三層スキーマ、データモデル		①	11	データベース構成法 (2)	レコード格納、システムカタログ、ファイル編成法、インデックス	①
3	関係データベース (1)	リレーション、関係代数 (選択、射影、集合演算)		①	12	データベース運用 (1)	トランザクションの概念、同時実行制御、ロック、隔離レベル	①
4	関係データベース (2)	関係代数 (結合、商、集約演算)、データ制約		①	13	データベース運用 (2)	デッドロック、リカバリ管理、セキュリティ管理	①
5	SQL (1)	データ定義、問い合わせ (SELECT、JOIN 句、集約関数など)		①	14	データベース運用 (3)	コネクション、Webデータベース	①
6	SQL (2)	副問い合わせ、更新 (INSERT、UPDATE)、アクセス制御 (GRANT など)		①	15	データベース関連技術	オブジェクト指向とデータベース、実体関連モデル、XML とデータベース	①
7	SQL (3)	トリガ、埋め込みSQL、動的SQL、ストアドルーチン		①	16	総復習	定期試験前の質問対応等	①
8	データベース設計 (1)	関係従属性、正規形		①	17	定期試験		①
9	データベース設計 (2)	更新不整合、無損失結合性、Boyce-Codd 正規形		①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評	①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計
		—	—	—	—	60%	40%	100%
		注意事項						
関連科目		データベース実習 I、データベース II、データベース実習 II						
使用教科書		①「情報工学レクチャーシリーズ データベース」 石川博 森北出版						
参 考 書		①「IT Text データベース」 速水治夫・宮崎収兄・山崎晴明 オーム社						
学生へのメッセージ		皆さんが普段何気に使っている情報システムの多くではデータベースが使用されています。そのため、データベースの知識・技術は、ICT分野に携わる者には必須であると言っても過言ではありません。初めて聞く言葉も多く、戸惑うこともあるかと思いますが、授業に真剣に取り組み教科書をたくさん読み返せば理解できない内容ではありませんので、根気よく取り組んでください。						

科 目 名 ▼		対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼			
アルゴリズム		情報システム技術科		A	2			
担 当 教 員		代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼			
糸川 剛		教員室Ⅱ		1年後期	専門・学科			
授業概要	アルゴリズムとは問題を解くための具体的手順です。大量のデータを高速に処理するためには、高度なアルゴリズムと、取り扱うデータをその処理に適した形に組織化するデータ構造が重要です。本講義では、アルゴリズムの図を用いた表現手法であるフローチャート、基本的データ構造とそれら进行操作するアルゴリズム、データ処理の基本となる各種探索アルゴリズムや整列アルゴリズムについて学びます。また、アルゴリズムの性能評価指標の一つである計算量についても学びます。							
授業目標	1. 基本的なデータ構造について説明できる。 2. 自分で考えたアルゴリズムをフローチャートで記述することができる。 3. 基本的探索アルゴリズムと整列アルゴリズムを説明することができる。							
育成能力項目	グローバル力	○	応用力	継続力				
	技術者倫理	○	デザイン力	マネージメント力				
	◎ 基礎力	○	コミュニケーション力	チームワーク力				
科目No.	厚生労働省基準 ▼				訓練時間			
①	区 分	専攻学科	教 科	データ工学	36			
②	区 分		教 科		0			
③	区 分		教 科		0			
授 業 計 画								
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目	内容概略		科目No.
1	講義概要	シラバスの説明、アルゴリズムとプログラムの関係		①	10	探索アルゴリズム(2)	連結リスト構造に対する挿入、削除アルゴリズム	①
2	フローチャートで用いる記号	フローチャートで用いる各種記号		①	11	計算量	時間計算量と領域計算量、オーダ表記を用いた計算量の表現	①
3	連結構造(1)	変数を用いたアルゴリズムの表現、値の交換、計算誤差		①	12	探索アルゴリズム(3)	連結リストを用いた線形探索アルゴリズムと2分探索アルゴリズム	①
4	選択構造	条件式による処理の分岐と論理演算子を用いた複雑な条件の表現		①	13	整列アルゴリズム(1)	整列アルゴリズムの枠組みと単純選択法による整列	①
5	反復構造(1)	制御変数による反復の制御と離散反復処理		①	14	整列アルゴリズム(2)	単純交換法と単純挿入法による整列	①
6	反復構造(2)	入力データ数未定の反復処理と番兵		①	15	モジュール化と再帰	モジュール化と再帰アルゴリズム、値渡しと参照渡し	①
7	基礎的データ構造(1)	セル、配列、レコードを用いたデータの表現		①	16	総復習	定期試験前の質問対応等	①
8	基礎的データ構造(2)	配列に対する挿入、削除アルゴリズム		①	17	定期試験		①
9	探索アルゴリズム(1)	連結リスト構造、連結リストのなぞりによる線形探索アルゴリズム		①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評	①
評価方法と評価基準 ▼	レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計	
	—	—	—	—	40%	60%	100%	
	注意事項		その他では小テストを実施する。					
関連科目	プログラミング言語ⅠⅡ、プログラミング言語実習ⅠⅡ、基礎数学ⅠⅡ、アルゴリズム実習							
使用教科書	①「うかる！基本情報技術者[科目B・アルゴリズム編]」 福嶋宏訓 日本経済新聞出版							
参 考 書	①「定本 Cプログラマのためのアルゴリズムとデータ構造」 近藤嘉雪 ソフトバンククリエイティブ							
学生へのメッセージ	ソフトウェア開発者を目指す学生にとっては、効率の良い、わかりやすいプログラムを書くことが大切です。そのためには、アルゴリズムやデータ構造に関する深い理解が必要です。どのようにして効率良くコンピュータに計算させるか？その背後にある理論や考え方を学びます。							

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼
半導体デバイス工学概論			情報システム技術科		B	2
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼
未定			教員室Ⅱ		1年後期	基礎・実技
授業概要		本講義では、現代社会を支える基盤技術である半導体デバイスの動作原理、構造、特性について学びます。LSI、光半導体、パワー半導体、ディスプレイデバイス、イメージセンサーといった各種デバイス技術を解説し、特にイメージセンサーでは、実デバイスを用いた実習を通じて駆動原理の理解を深めます。また、LSIの基本的な製造工程も解説し、最新のプロセス技術にも触れます。				
授業目標		1. 半導体デバイスの働きと種類、製造の基本について説明することができる 2. CCDやCMOSイメージセンサの原理・構造・動作・機能・特性について説明することができる 3. ディスプレイ・デバイスの原理・構造・動作・機能・特性について説明することができる				
育成能力項目		グローバル力	◎	応用力	継続力	
		技術者倫理	○	デザイン力	マネージメント力	
		基礎力	○	コミュニケーション力	チームワーク力	
科目No.	厚生労働省基準 ▼					訓練時間
①	区 分	系基礎実技	教 科	計算機工学実習		36
②	区 分		教 科			0
③	区 分		教 科			0
授 業 計 画						
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目	
					内容概略	
1	半導体デバイスの働きと種類1	ガイダンス(シラバスの説明).LSIとは何か,ロジックLSI		①	10	半導体デバイスの働きと種類6
2	半導体デバイスの働きと種類2	メモリLSI		①	11	イメージセンサー1
3	半導体デバイスの働きと種類3	光半導体		①	12	イメージセンサー2
4	半導体デバイスの働きと種類4	パワー半導体		①	13	イメージセンサー3
5	半導体デバイスの製造1	前工程1		①	14	イメージセンサー4
6	半導体デバイスの製造2	前工程2		①	15	イメージセンサー5
7	半導体デバイスの製造3	後工程		①	16	総復習
8	中間試験			①	17	定期試験
9	半導体デバイスの働きと種類5	ディスプレイデバイス(液晶ディスプレイ,有機ELディスプレイ,電子ペーパー)		①	18	総括
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他
		—	50%	—	—	—
		注意事項				
関連科目		半導体工学基礎, 基礎物理				
使用教科書		図解入門よくわかる最新半導体の基本と仕組み 著者 西久保靖彦 秀和システム				
参考書		・「CCD／CMOSイメージ・センサの基礎と応用」著者 米本和也 CQ出版 ・「カラーTFT液晶ディスプレイ 改訂版」著者 SEMIカラーTFT液晶ディスプレイ改訂版編集委員会 共立出版				
学生へのメッセージ		皆さんは技術立国日本の将来を担う技術者として羽ばたこうとしています。そして卒業後どんな専門分野の仕事に就いたとしても、忙しい業務の合間を縫いその専門を学び続けていくことになります。時には新たな分野を学ばなければならないこともあるでしょう。『必要に応じてその学問を学ぶことのできる基礎』を身に付けておくことが望ましく、これをじっくりとできるのが学生時代です。そう、今まさにこの時を逃してはなりません。一緒に頑張りましょう。				

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼
人工知能技術Ⅰ			情報システム技術科		B	2
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼
牧岡 毅			時間講師室		1年後期	専門・実技
授業概要		本科目は、Pythonを用いて、AI、特に機械学習をプログラミングし実践的に学びます。 Pythonの基本文法、プログラミング手法などの基礎から学ぶことができます。 機械学習の基礎的理解から様々な手法までを学び、実例を通じて、多くのプログラムを作成、実行することで、理解を深めることができます。				
授業目標		1. 機械学習を含んだプログラムを作成できる。 2. クラスタリング処理を含んだプログラムを作成できる。 3. 画像処理を含んだプログラムを作成できる。				
育成能力項目		グローバル力 技術者倫理 ○ 基礎力	◎ 応用力 デザイン力 コミュニケーション力	○ 継続力 マネジメント力 チームワーク力		
科目No.	厚生労働省基準 ▼					訓練時間
①	区 分	専攻実技	教 科	図形処理実習		36
②	区 分		教 科			0
③	区 分		教 科			0
授 業 計 画						
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目	
1		ガイダンス	シラバスの説明、実習の進め方とPythonの実行方法など	①	10	教師あり学習(回帰3)
2		Python文法(1)	基本的文法(型、変数、配列など)	①	11	教師あり学習(分類1)
3		Python文法(2)	基本的文法(繰り返し文、行列の演算など)	①	12	教師あり学習(分類2)
4		機械学習の理解	機械学習の事例学習、機械学習におけるモデリング	①	13	ニューラルネットワーク
5		グラフの描画	2次元のグラフ、3次元グラフの描画	①	14	ニューラルネットワーク応用
6		数学の復習(1)	ベクトル、和積、偏微分	①	15	画像認識
7		数学の復習(2)	行列、指数関数・対数関数	①	16	総復習
8		教師あり学習(回帰1)	1次元入力の直線モデル、2次元入力の面モデル	①	17	定期試験
9		教師あり学習(回帰2)	D次元線形回帰モデル、線形基底モデル	①	18	総括
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他
		—	—	—	—	—
		注意事項				
関連科目		ネットワークプログラミング、図形処理工学、図形処理工学実習、画像処理工学、画像処理工学実習、データリテラシ				
使用教科書		①「Pythonで動かして学ぶ！あたらしい機械学習の教科書」伊藤 真 翔泳社				
参 考 書		①「ゼロから作るDeep Learning —Pythonで学ぶディープラーニングの理論と実装」斎藤 康毅 オライリージャパン ②「機械学習入門」堅田洋資 菊田遥平 谷田和章 森本哲也 秀和システム				
学生へのメッセージ		この講義は、十分な復習を行い、理解が浅いと思われる分野については、随時、講師に質問して下さい。加えて、復習だけではなく、予習を必ず行って下さい。予習・復習の目安として60時間の自学を行って下さい。				

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼
Java実習			情報システム技術科		B	4
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼
古 橋 徹			時間講師室		1年後期	専門・実技
授業概要		Java言語を使用してオブジェクト指向プログラミング(OOP: Object Oriented Programming)に必要な基礎知識とプログラミング言語の知識(構文や書き方およびその意味)について学びます。特に、カプセル化、継承、ポリモーフィズムといった、オブジェクト指向の主要部分について学び、Javaプログラマとしての基本を習得します。				
授業目標		1. オブジェクト指向のクラスの記法を理解し、基本クラスを作成できる。 2. 基本クラスを組み合わせさせてオブジェクト指向のプログラムを作成できる。 3. GUIで重要なイベントの取り扱い、ファイル操作の基本を含むプログラムを作成できる。				
育成能力項目		グローバル力	○	応用力	継続力	
		技術者倫理	○	デザイン力	マネージメント力	
		◎ 基礎力		コミュニケーション力	チームワーク力	
科目No.	厚生労働省基準 ▼					訓練時間
①	区 分	専攻実技	教 科	ソフトウェア工学実習		72
②	区 分		教 科			0
③	区 分		教 科			0
授 業 計 画						
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目 内容概略 科目No.	
1	導入	シラバスの説明、オブジェクト指向の概要、開発環境の概要と操作説明		① 10	複雑な制御	Switch文による多分岐処理、ループのBreak、Continueによる制御 ①
2	Javaプログラムの基本	クラス、メソッド、修飾子、スコープなど、Javaプログラムの基本		① 11	メソッド	メソッドの作り方やメソッドのオーバーロード ①
3	データ型と演算子	変数、データ型、キャストと演算子		① 12	クラスとコンストラクタ	クラスの定義とインスタンスの生成、コンストラクタのオーバーロード、カプセル化 ①
4	基本ライブラリ	MathクラスやInputクラスといった標準クラスの利用		① 13	参照、継承	インスタンスはメモリ領域のどこにあるか 既存クラスを土台にした新しいクラス作成 ①
5	配列	配列の作成とFor文による配列アクセス		① 14	ポリモーフィズム	いろいろな型として扱えるクラス ①
6	For文	For文を使う簡単なデータ操作		① 15	抽象クラス	抽象クラスとインタフェース ①
7	各種演算子	関係演算子、論理演算子、条件演算子		① 16	総復習	定期試験前の質問対応 ①
8	While文	回数が決まっていない繰り返しの処理		① 17	定期試験	①
9	If文	条件による処理の分岐		① 18	総括	学修を通じての講評、質疑応答等 ①
評価方法と 評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他
		—	—	—	—	60%
		注意事項				
関連科目		プログラミング言語Ⅰ、プログラミング言語実習Ⅰ、プログラミング言語Ⅱ、プログラミング言語実習Ⅱ、アルゴリズム、アルゴリズム実習				
使用教科書		①「Javaバイブルシリーズ オブジェクト指向プログラミングの教科書」 阿知波寛 著 SCC BOOKS				
参 考 書		①「Javaチュートリアル」 メアリ・カンピオーネ、キャシー・ウォルラス、その他著 ビアソン・エデュケーション ②「プログラミング言語Java」 ケン・アーノルド、ジェームズ・ゴスリン、その他著 ビアソン・エデュケーション ③「Java謎＋落とし穴 徹底解明」 前橋和弥著 技術評論社				
学生への メッセージ		この講義では単にJavaの文法を学ぶだけでなく、クラス・カプセル化・継承・ポリモーフィズムといったオブジェクト指向の主要な部分についても学びます。したがって、十分な復習が不可欠ですので、理解が浅いと思われる分野については、随時、講師に質問してください。				

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼	
データベース実習 I				情報システム技術科		A		2	
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼	
古橋 徹				時間講師室		1年後期		専門・実技	
授業概要		データベース I で学ぶ内容のうち、データベース上でのデータ操作やデータベースアプリケーションの開発に重要なSQLとトランザクション管理を中心に、実習を通してデータベースへの理解を深めるとともに、SQLの基本的な文法、操作方法を習得する。							
授業目標		1. SQLによるデータベースの基本的な操作、テーブル作成、データの検索、追加、更新、削除を行うことができる。 2. データ検索において、テーブルの結合や副問い合わせを行うことができる。 3. デッドロックの発生メカニズムを理解しており、基本的な回避方法について説明できる。							
育成能力項目		グローバル力	○	応用力		継続力			
		技術者倫理	○	デザイン力		マネジメント力			
		◎ 基礎力		コミュニケーション力		チームワーク力			
科目No.	厚生労働省基準 ▼								訓練時間
①	区 分	専攻実技	教 科	情報工学実習					36
②	区 分		教 科						0
③	区 分		教 科						0
授 業 計 画									
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.
1	導入(1)	シラバスの説明		①	10	データ検索(8)	副問い合わせ、相関副問い合わせ		①
2	導入(2)	実習環境の構築と確認		①	11	データ追加	INSERT文		①
3	データ検索(1)	SELECT文		①	12	データ更新・削除	UPDATE文、DELETE文		①
4	データ検索(2)	SELECT文(LIKE演算子、論理演算子)		①	13	テーブル作成	CREATE TABLE文		①
5	データ検索(3)	SELECT文(ORDER BY句、LIMIT句)		①	14	テーブルの変更・制約	ALTER TABLE文、外部制約		①
6	データ検索(4)	SELECT文(GROUP BY句、HAVING句)		①	15	トランザクション管理	COMMIT、ROLLBACK、ISOLATIONLEVEL、デッドロック		①
7	データ検索(5)	内部結合		①	16	総復習	総合演習前の質問対応等		①
8	データ検索(6)	外部結合		①	17	総合演習			①
9	データ検索(7)	自己結合		①	18	総括	学期を通じての講評、質疑応答等		①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計	
		40%	—	—	—	60%		100%	
		注意事項							
関連科目		データベース I、データベース II、データベース実習 II							
使用教科書		①「書き込み式SQLのドリル 改訂新版」 山田祥寛 日経BP社							
参 考 書		①「情報工学レクチャーシリーズ データベース」 石川博 森北出版 ②「IT Text データベース」 速水治夫・宮崎収兄・山崎晴明 オーム社 ③「MySQL徹底入門 第3版」 遠藤俊裕・他著 翔泳社							
学生へのメッセージ		SQLはプログラミング言語のひとつといえます。言語を学ぶのですから、習得するためにはたくさん読み書きすることが重要になります。実習に真剣に取り組むことはもちろんですが、自宅での予習、復習を行い、たくさんSQL文を書いてみてください。そうすれば、きっとSQLマスターになります。							

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼		
ネットワーク工学実習Ⅰ			情報システム技術科		A	2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼		
坂田 聡			教員室Ⅱ		1年後期	専門・実技		
授業概要		サーバOSの基本的なコマンドを習得する。また、サーバをネットワークに接続するために必要な基本的な知識を学び、複数のセグメントから構成されるネットワークを作成する。						
授業目標		1. サーバOSの基本コマンドが理解できる。 2. サーバをネットワークに接続するための設定ができる。 3. 複数のセグメントから構成されるネットワークを設計できる。						
育成能力項目		グローバル力	○	応用力		継続力		
		技術者倫理		デザイン力		マネジメント力		
		◎ 基礎力		コミュニケーション力	○	チームワーク力		
科目No.	厚生労働省基準 ▼						訓練時間	
①	区 分	専攻実技	教 科	データ通信実習			36	
②	区 分		教 科				0	
③	区 分		教 科				0	
授 業 計 画								
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略	科目No.
1	サーバOSインストール	VMWare上にサーバOSとしてLinuxをインストールする		①	10	ルーティングテーブル	単一ネットワークのルーティングテーブルの理解	①
2	用語、基礎知識	サーバOSを学ぶ前に知っておくべき用語、基礎知識を解説する		①	11	ipコマンド	ipコマンドによるIPアドレス、ARPテーブルの表示と理解	①
3	ネットワークデバイス	ネットワークデバイスの説明を行う		①	12	ARP	IPアドレスからMACアドレスを求めるARPの動きの理解とパケットキャプチャ	①
4	接続の設定	静的なIPアドレスを割り当てる方法を学ぶ		①	13	hostsファイル	hostsファイルによる順引きと逆引き	①
5	接続テスト	ICMPを用いるpingについて理解し、接続テストを行う		①	14	複数のデバイスの作成	複数のネットワークデバイスの作成方法と設定	①
6	異なるネットワーク間接続	異なるネットワーク間接続の方法としてゲートウェイを学ぶ		①	15	ネットワーク間接続	ネットワーク構成図の作成、複数のネットワーク間接続を行うための仮想マシンの作成	①
7	yumコマンド	yumコマンドを用いて必要なパッケージがインストールできることを学ぶ		①	16	総復習	定期試験前の質問対応	①
8	Ethernetフレーム	Ethernetフレームの形式について学ぶ		①	17	定期試験	筆記試験	①
9	パケットキャプチャ	EthernetフレームのCUI、GUI上でのパケットキャプチャ		①	18	総括	学期を通じての講評、質疑応答等	①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計
		—	—	—	60%	—	40%	100%
		注意事項						
関連科目		ネットワーク工学、ネットワーク工学実習Ⅰ・Ⅱ、ネットワークプログラミング、情報セキュリティⅠ・Ⅱ、クラウドシステム						
使用教科書								
参 考 書		①「CentOS7で作るネットワークサーバ構築ガイド」サーバ構築研究会著 秀和システム						
学生へのメッセージ		サーバOSを学ぶことはネットワーク構築技術者だけでなくアプリケーション作成者にとっても必要です。コマンドについては覚えるのではなく、必要な時に調べることができる力を身に付けます。						

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼			履修区分 ▼		単位数 ▼		
企業実習☆			Ⅰ 群[機械]・Ⅱ 群[電子・情報]			A		4		
担 当 教 員			代表教員室 ▼			開 講 期 ▼		区 分 ▼		
						1年後期		専門・実技		
授業概要		企業実習は、本校の基本理念である「実践技術者を育成し、本県の経済社会の発展に寄与すること」を達成していくうえで、ぜひとも必要なものとして、本校の正規のカリキュラムの中に位置づけています。 この実習は、学生が実社会で真に役立つための素地を作ることをねらいとしています。								
授業目標		1. 企業現場におけるものづくりのシステム、考え方を学ぶことができる。 2. 業務遂行の上でのコミュニケーション、役割分担、時間管理等のあり方、大切さを学ぶことができる。 3. 職業人となるための自覚を養うことができる。								
育成能力項目		○	グローバル力	○	応用力	○	継続力			
		○	技術者倫理	○	デザイン力	○	マネージメント力			
		○	基礎力	○	コミュニケーション力	○	チームワーク力			
科目No.	厚生労働省基準 ▼								訓練時間	
①	区 分	専攻実技	教 科						72	
②	区 分		教 科						0	
③	区 分		教 科						0	
授 業 計 画										
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.	
1	ガイダンス	企業実習に伴う安全衛生講話/実習概要説明		①	10	実習	各企業において現場実習		①	
2	実習	各企業において現場実習		①	11	実習	各企業において現場実習		①	
3	実習	各企業において現場実習		①	12	実習	各企業において現場実習		①	
4	実習	各企業において現場実習		①	13	実習	各企業において現場実習		①	
5	実習	各企業において現場実習		①	14	実習	各企業において現場実習		①	
6	実習	各企業において現場実習		①	15	実習	各企業において現場実習		①	
7	実習	各企業において現場実習		①	16	実習	各企業において現場実習		①	
8	実習	各企業において現場実習		①	17	実習	各企業において現場実習		①	
9	実習	各企業において現場実習		①	18	報告会	学内で企業実習報告を行う		①	
評価方法と 評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計		
		注意事項				50%	50%	100%		
		注意事項								
関連科目										
使用教科書										
参 考 書										
学生への メッセージ		この実習は、一般にはインターンシップといわれるものと同義で、企業で就業体験をすることにより企業組織を理解し、就職活動に役立て、さらに職業意識を身につけることを目的としています。この授業は受け入れていただく企業があってこそ成り立つものです。また、実習中は企業の多くの方のお世話になります。実習させていただくことに感謝をし、社会人としての意識を持ち、コミュニケーションをとりながら積極的に体験し楽しんでください。								

3. 教科 [2年前期]

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼			履修区分 ▼		単位数 ▼		
英語Ⅲ			Ⅰ 群[機械]・Ⅱ 群[電子・情報]			B		2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼			開 講 期 ▼		区 分 ▼		
丸野・林・井上・赤星			時間講師室			2年前期		一般教養		
授業概要		文法を復習しながら、テーマごとの語彙を関連付けて覚えていき、日常に使う英語だけでなく、TOEICにも役立つ英語をマスターしていきます。また、ペアワーク、グループワーク、ゲーム、様々なアクティビティを通して英語を発信する機会を設け、コミュニケーション力を高めます。								
授業目標		1. 会話の中での文の組み立てなど意識することが出来る。 2. テーマごとに関連付けてボキャブラリー力を高め英語の表現を広げることが出来る。 3. 学習したボキャブラリーや表現を実際に使うことが出来る。								
育成能力項目		◎	グローバル力			応用力		○	継続力	
			技術者倫理			デザイン力			マネージメント力	
			基礎力		○	コミュニケーション力		○	チームワーク力	
科目No.	厚生労働省基準 ▼								訓練時間	
①	区 分	一般教養	教 科						36	
②	区 分		教 科						0	
③	区 分		教 科						0	
授 業 計 画										
授業項目			内容概略		科目No.	授業項目			内容概略	科目No.
1	現在時制	シラバスの説明・Jobs & Careers 【単語テスト①】			①	10	will/be going to	Business Trip 【単語テスト⑨】	①	
2	可算名詞/不可算名詞	Entertainment 【単語テスト②】			①	11	比較	Advertising 【単語テスト⑩】	①	
3	前置詞	Work Schedule 【単語テスト③】			①	12	確認テスト2	Unit6からUnit10について確認	①	
4	過去時制	Health & Fitness 【単語テスト④】			①	13	受動態	Factory Tour 【単語テスト⑪】	①	
5	進行形	Shopping 【単語テスト⑤】			①	14	動名詞/不定詞	Money Matters 【単語テスト⑫】	①	
6	確認テスト1	Unit1からUnit5について確認			①	15	助動詞	Leisure 【単語テスト⑬】	①	
7	代名詞	Business Meeting 【単語テスト⑥】			①	16	総復習	定期試験前の演習・質疑応答	①	
8	現在完了	Recruitment 【単語テスト⑦】			①	17	定期試験	定期試験実施	①	
9	接続詞	Customer Needs 【単語テスト⑧】			①	18	総括	定期試験評価及び講評	①	
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計		
		—	60%	—	—	10%	30%	100%		
		注意事項								
関連科目		英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ								
使用教科書		①「English Switch ストーリーで学ぶ大学基礎英語とTOEICテスト頻出語彙」 著者 Robert Hickling・臼倉美里 金星堂 ②「TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ」 著者 TEX加藤 朝日新聞出版								
参 考 書										
学生へのメッセージ		英語Ⅰ・Ⅱと比べると、使われている語彙やフレーズが少し難しくなりますが、日常で使う表現がたくさんありますし、TOEIC対策にも適しています。繰り返し使いながら覚えていきましょう。								

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼	
応用数学Ⅱ				情報システム技術科		A		2	
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼	
岡 智典				教員室Ⅱ		2年前期		基礎・学科	
授業概要		微分方程式の解法について学びます。特に応用上重要な微分方程式に関しては、これが電気回路などの物理現象解析にどのように利用されているのかを理解することができます。また、工学上重要となるラプラス変換による微分方程式の解法についても併せて学びます。							
授業目標		1. 微分方程式の計算ができる。 2. ラプラス変換の概念を説明できる。 3. 変換表を用いた基本的なラプラス変換・逆変換ができる。							
育成能力項目		グローバル力	○	応用力	○	継続力			
		技術者倫理		デザイン力		マネジメント力			
		◎ 基礎力		コミュニケーション力		チームワーク力			
科目No.	厚生労働省基準 ▼							訓練時間	
①	区 分	一般教養	教 科	情報数学				36	
②	区 分		教 科					0	
③	区 分		教 科					0	
授 業 計 画									
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.
1	講義概要	講義概要、微分積分の復習		①	10	ラプラス変換(1)	ラプラス変換の定義		①
2	1階微分方程式(1)	変数分離形の解法		①	11	ラプラス変換(2)	ラプラス変換の性質(1)		①
3	1階微分方程式(2)	同次形の解法		①	12	ラプラス変換(3)	ラプラス変換の性質(2)		①
4	2階微分方程式(1)	2階線形微分方程式の解法		①	13	ラプラス変換(4)	ラプラス変換と初期値問題		①
5	2階微分方程式(2)	抵抗力を受けるモデルと変数分離形		①	14	フーリエ解析(1)	フーリエ級数展開		①
6	2階微分方程式(3)	振動モデルと2階線形微分方程式		①	15	フーリエ解析(2)	フーリエ変換		①
7	微分方程式のまとめ(1)	微分方程式の解法のまとめ		①	16	総復習			①
8	中間試験			①	17	定期試験			①
9	微分方程式のまとめ(2)	微分方程式の解法のまとめと応用		①	18	総括	定期試験解説		①
評価方法と 評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計	
		—	35%	30%	—	—	35%	100%	
		注意事項							
関連科目		基礎数学Ⅰ、電気回路、アルゴリズム							
使用教科書		①「やさしく学べる ラプラス変換・フーリエ解析 増補版」 著者 石村 園子 共立出版							
参 考 書		①「やさしく学べる微分方程式」 石村園子 共立出版社							
学生への メッセージ		本講義は、基礎数学Ⅰがベースになります。前期からしっかりと取り組んでおいて下さい。また、微分方程式は電気回路や制御系などの工業分野の基礎となりますので、しっかりとマスターしましょう。数学は、技術者にとっての共通言語です。この講義は、情報システム技術科の他の科目とも深く関係しているため、十分な復習を行い、理解が浅いと思われる分野については、随時、講師に質問して下さい。加えて、復習だけではなく、予習を必ず行って下さい。							

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼
プログラミング言語実習Ⅲ			情報システム技術科		B	2
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼
非常勤講師					2年前期	基礎・実技
授業概要		Visual Basic for Applications(VBA)は、Microsoft Officeに含まれるアプリケーションソフトの拡張機能で、利用者が簡易なプログラムを記述して実行することで複雑な処理の自動化などを行なうために用意されたプログラミング言語です。Microsoft Officeのアプリケーションにおける、繰り返し行われる定型的な作業や複雑な処理を自動的に実行するためにVBAは多くの場面で活用され、簡単に高度なデータ解析・可視化を実行可能となります				
授業目標		1. Excel VBAのプログラムを作成できる。 2. ユーザーフォームを用いたプログラムを作成できる。 3. VBAを使って、Excelの自動操作のマクロが正しく使用できる。				
育成能力項目		グローバル力	◎	応用力		継続力
		技術者倫理	○	デザイン力		マネージメント力
		基礎力		コミュニケーション力		チームワーク力
科目No.	厚生労働省基準 ▼					訓練時間
①	区 分	系基礎実技	教 科	情報数学演習		36
②	区 分		教 科			0
③	区 分		教 科			0
授 業 計 画						
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目	
					内容概略	
1	導入	Excelマクロ、VBAの概要とエディタの操作方法		①	10 エラー処理	発生したエラーに適切に対処するエラーラップについて
2	VBAの基本構文	VBAの基本用語と基本構文、オブジェクトでExcel機能にアクセス		①	11 課題演習(1)	目的のセルへアクセス
3	VBA文法(1)	変数と演算子		①	12 課題演習(2)	自動表計算
4	VBA文法(2)	繰り返し処理のFor文		①	13 課題演習(3)	データの解析
5	VBA文法(3)	条件分岐のif文とSelect文		①	14 課題演習(4)	Web上のデータをExcelに取り込み
6	対話型マクロ	メッセージボックスやダイアログボックスを使った対話型のマクロ利用		①	15 課題演習(5)	数値計算への応用
7	日付・時刻の操作	日付や時刻を取得、操作する関数の利用		①	16 総復習	
8	配列	配列の基本構文や動的配列		①	17 定期試験	
9	イベントマクロ	マクロの実行とデバッグ		①	18 総括	定期試験解説
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他
		40%	20%	—	40%	
		注意事項				
関連科目		プログラミング言語Ⅰ、プログラミング言語実習Ⅰ、プログラミング言語Ⅱ、プログラミング言語実習Ⅱ、Java実習、数値計算実習				
使用教科書		「Excel VBA 教科書」、古川 順平, SB Creative 社				
参 考 書		①「例題30＋演習問題70でしっかり学ぶ Excel VBA標準テキスト」 近田順一朗 技術評論社				
学生へのメッセージ		プログラミング技術を習得するには、文法だけでなくアルゴリズムも重要です。VBAの文法的な特徴だけにこだわらず、どのような処理をさせることが最適であるかを意識し臨んでください。十分な復習を行い、理解が浅いと思われる分野については、随時講師に質問してください。加えて復習だけでなく、予習を必ず行ってください。予習・復習の目安として60時間自学を行ってください。				

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼	
オペレーティングシステム				情報システム技術科		B		2	
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼	
牧岡 毅				時間講師室		2年前期		専門・学科	
授業概要		オペレーティングシステムは電子計算機に欠かせない存在になっています。アプリケーション・プログラムやユーザに対して共通の機能を提供するとともに、ハードウェアを効率良く利用するための基盤ソフトウェアです。本講義では、オペレーティングシステムの基本的な概念や構成、動作などについて学習します。							
授業目標		1. オペレーティングシステムの役割について基本的な知識を習得できる。 2. プロセス管理、システム管理、メモリ管理などについて、基本的な概念が理解できる。 3. ファイル管理、ネットワーク構築が把握できる。							
育成能力項目		グローバル力		◎	応用力		継続力		
		技術者倫理		○	デザイン力		マネージメント力		
		基礎力		○	コミュニケーション力		チームワーク力		
科目No.	厚生労働省基準 ▼								訓練時間
①	区 分	専攻学科	教 科	オペレーティングシステム					36
②	区 分		教 科						0
③	区 分		教 科						0
授 業 計 画									
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.
1	ガイダンス	シラバスの説明、オペレーティングシステムの役割、プログラムの処理形態		①	10	仮想記憶(1)	仮想記憶システム、スワップスケジューリング、記憶装置の局所性		①
2	CPUの仮想化(1)	プロセス、タスク、スレッド、並列処理、逐次処理、割り込み処理		①	11	仮想記憶(2)	静的と動的ページ置換えアルゴリズム		①
3	CPUの仮想化(2)	スケジューリング処理		①	12	ファイル管理(1)	ファイルの管理基本、2次記憶の管理とアクセス方式、階層化ディレクトリ		①
4	プロセス実行管理(1)	プロセスの競合、協調、干渉、排他制御		①	13	ファイル管理(2)	ディスクキャッシュ、ファイルシステムの構築		①
5	プロセス実行管理(2)	セマフォア、プロセス協調		①	14	仮想化	仮想化の背景、方式、CPUへの支援機能		①
6	プロセス実行管理(3)	並行プロセス処理、モニタ		①	15	ネットワークとセキュリティ強化	トポロジ、プロトコル、強制アクセス制御、特権制御		①
7	記憶領域管理(1)	主記憶装置の管理、レジスタ機構、		①	16	総復習	定期試験前の質問対応、レポート返却等		①
8	記憶領域管理(2)	領域割当、プログラムの記憶領域確保		①	17	定期試験			①
9	記憶領域管理(3)	ページング、動的再配置、セグメンテーション、多重レベルページング		①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評		①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計	
		—	—	—	—	40%	60%	100%	
		注意事項		小テストを行い評価の40%を割り当てる					
関連科目		サーバOS入門、情報セキュリティⅠ、情報セキュリティⅡ							
使用教科書		「オペレーティングシステム(第2版)」, 松尾啓志著, 森北出版							
参 考 書		①「オペレーティングシステム」, 大澤範高著, コロナ社 ②「コンピュータアーキテクチャ(改訂2版)」, 野口, 光木, 品川, オーム社							
学生へのメッセージ		この講義は、情報技術の基礎となる科目で情報システム技術科の他の科目とも深く関係しているため、十分な復習を行い、理解できない場合、随時講師に質問して下さい。							

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼		
情報セキュリティⅠ			情報システム技術科		B	2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼		
糸川 剛			教員室Ⅱ		2年前期	専門・学科		
授業概要		インターネットと情報技術の発展・普及につれて、新たな危険性が潜んでいます。コンピュータウイルスやスパムメール、DoS攻撃、不正侵入、電子詐欺、プライバシー侵害などが頻繁に発生しています。これらの危険性を回避・防止するため、情報セキュリティが非常に重要な課題になっています。本科目は、まず情報倫理と情報セキュリティの基本要素について学習し、情報社会の様々な危険性・脅威を理解し、その対策および基本的な情報セキュリティ技術を学びます。						
授業目標		1. 情報セキュリティ基本要素・方針が理解できる。						
		2. 情報倫理を把握できる。						
		3. インターネットによる様々な攻撃・脅威・危険について理解できる。						
育成能力項目		グローバル力	◎	応用力		継続力		
		○ 技術者倫理		デザイン力		マネージメント力		
		○ 基礎力		コミュニケーション力		チームワーク力		
科目No.	厚生労働省基準 ▼					訓練時間		
①	区 分	専攻学科	教 科	オペレーティングシステム		36		
②	区 分		教 科			0		
③	区 分		教 科			0		
授 業 計 画								
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略	科目No.
1	導入	シラバスの説明、情報セキュリティの基本要素と基本原則		①	10	マルウェア対策	マルウェアとは、マルウェア対策	①
2	情報資産・脅威・脆弱性	脅威の種類、脆弱性の種類		①	11	不正アクセス対策	ファイアウォール、DMZ、IDS、不正入力防止	①
3	サイバー攻撃手法	不正アクセス、盗聴、なりすまし、サービス妨害、ソーシャルエンジニアリング		①	12	情報漏洩対策とアクセス管理	リモートアクセス、認証サーバ、TLS、VPN、ネットワーク管理技術	①
4	暗号	暗号の基本、共通鍵暗号、公開鍵暗号		①	13	知的財産権と個人情報保護	知的財産保護、個人情報の保護	①
5	認証	認証の基本、パスワードの欠点、バイオメトリクス、デジタル署名、PKI		①	14	セキュリティ関連法規	コンピュータ犯罪関連の法規、サイバーセキュリティ基本法	①
6	リスクマネジメント	手法の決定、リスク評価、リスク対応		①	15	関連法規やガイドライン	デジタル化関連の法規、各種標準化団体と国際規格	①
7	情報セキュリティポリシー	基本方針、対策基準、実施手順		①	16	総復習	定期試験前の質問対応等	①
8	各種管理策	国際基準のガイドライン		①	17	定期試験		①
9	システム監査	監査基準、監査の種類、監査の流れ		①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評	①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計
		—	50%	—	—	—	50%	100%
		注意事項						
関連科目		ネットワーク工学実習Ⅰ、ネットワーク工学実習Ⅱ、ネットワーク工学実習Ⅲ、情報セキュリティⅡ、ネットワーク工学						
使用教科書		「情報セキュリティマネジメント合格教本」、岡嶋裕史著、技術評論社						
参 考 書		①「情報セキュリティの基本と仕組み」 相戸 浩志 著 秀和システム ②「情報セキュリティ教科書」、高田 南、東京電気大学出版局						
学生へのメッセージ		情報セキュリティの確保はネットワークの利用があたりまえになった現在、非常に大きな課題です。情報処理関係の技術者にとっては特に必須な知識であり、常識と言えるものもあります。常日頃からニュースなどに関心を向け、いろんなセキュリティ関連情報を吸収してください。						

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼			履修区分 ▼		単位数 ▼	
データベースⅡ			情報システム技術科			A		2	
担 当 教 員			代表教員室 ▼			開 講 期 ▼		区 分 ▼	
糸川 剛			教員室Ⅱ			2年前期		専門・学科	
授業概要		情報システムの分野では、SQLを用いてデータベースを操作するこ、ネットワークを介してそのデータベースを操作、活用する技術力が求められます。本講義では、PHP言語を用いたウェブアプリケーションの作成のための各種プログラミング技術を学びます。							
授業目標		1. Webデータベースシステムの設計・構築の流れが説明できる。 2. MySQLに対するPHPを使ったデータ検索や更新の方法について説明できる。 3. 第3正規化や制約を意識した簡単なデータベース設計ができる。							
育成能力項目		グローバル力		◎	応用力			継続力	
		技術者倫理		○	デザイン力			マネジメント力	
		基礎力		○	コミュニケーション力			チームワーク力	
科目No.	厚生労働省基準 ▼							訓練時間	
①	区 分	専攻学科	教 科	データ工学				36	
②	区 分		教 科					0	
③	区 分		教 科					0	
授 業 計 画									
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.
1	講義概要	シラバスの説明、講義の目的と成績評価、LAMP		①	10	PHP+DB(1)	PDOを用いたデータベースへの接続		①
2	MySQL入門	MySQLとリレーショナルデータベース		①	11	PHP+DB(2)	クエリの実行、フォームから入力された値のDBへの登録		①
3	PHP(1)	PHPプログラムの動かし方 オブジェクトを使ったプログラミング		①	12	PHP+DB(3)	データの一覧表示とページング処理		①
4	PHP(2)	変数と連想配列		①	13	Webアプリ作成(1)	作成するアプリの仕様とデータベースの設計		①
5	PHP(3)	数値計算とファイル入出力		①	14	Webアプリ作成(2)	ログイン・ログアウト処理		①
6	PHP(4)	HTMLフォームからの値取得		①	15	Webアプリ作成(3)	データ登録画面、データ一覧表示画面		①
7	PHP(5)	セッション機能の利用		①	16	総復習	定期試験前の質問対応等		①
8	PHP(6)	ファイルのアップロード		①	17	定期試験			①
9	DB作成	データベースの作成		①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評		①
評価方法と 評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計	
		—	50%	—	—	—	50%	100%	
		注意事項							
関連科目		データベースⅠ、データベース実習Ⅰ・Ⅱ、サーバOS入門、ネットワーク工学							
使用教科書		①「よくわかるPHPの教科書 PHP7対応版」 たにぐちまこと マイナビ出版							
参 考 書		①「IT Text データベース」 速水治夫・宮崎収兄・山崎晴明 オーム社							
学生への メッセージ		データベースⅡではRDBMSを活用する情報システムの仕組みを学びます。オンラインショッピングサイトなどの大量データを取り扱うWebアプリケーションが当たり前になった現代の情報システムを作成する機会が多いSE、プログラマにとって重要な知識です。初めて聞く専門用語も増えてきますので、できる限り事前に教科書に目を通した上で、授業に臨むようにしてください。							

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼	
図形処理工学				情報システム技術科		A		2	
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼	
里中 孝美				時間講師室		2年前期		専門・学科	
授業概要		最近のコンピュータの発達により、様々な分野でコンピュータ画像処理の技術が高まっています。本科目では、マルチメディアやコンピュータビジョンで必要とされる画像処理の基礎及びコンピュータグラフィックスの基礎について講義を行います。線形代数と3次元幾何変換、曲線・局面の表現などの図形処理に必要な数学の基礎を学びます。							
授業目標		1. 図形処理の基本である座標変換、投影の幾何的表現を理解し、説明できる。 2. 3次元形状のモデリング、曲線・局面の手法を理解し、説明できる。 3. 図形処理のレンダリング、レイトレーシング、シェーディングの手法を理解し、説明できる。							
育成能力項目		グローバル力		◎	応用力			継続力	
		技術者倫理			デザイン力		○	マネージメント力	
		○	基礎力			コミュニケーション力			チームワーク力
科目No.	厚生労働省基準 ▼								訓練時間
①	区 分	専攻学科	教 科	図形処理工学					36
②	区 分		教 科						0
③	区 分		教 科						0
授 業 計 画									
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.
1	講義概要	本講義の進め方、CG、画像処理の歴史、産業応用について講義する。		①	10	アニメーション(1)	アニメーションの仕組み、キーフレーム法、動きの設定方法について学ぶ		①
2	2次元座標変換	平行移動、回転、拡大縮小、アフィン変換のについて学ぶ。		①	11	アニメーション(2)	キャラクターのモデリングとアニメーション制作の流れについて学ぶ。		①
3	3次元座標変換	合成変換、同次座標系の行列表現について学ぶ。		①	12	レイトレーシング法	レイトレーシング法の原理、可視点の輝度計算、交差判定について学ぶ。		①
4	視野変換	3次元物体の投影原理と性質、ビューイングパイプラインについて学ぶ。		①	13	シェーディング(1)	物体の表面の性質である拡散反射、鏡面反射、透過・屈折について学ぶ。		①
5	モデリング(1)	CGで利用される3次元形状の各種モデリング手法について学ぶ。		①	14	シェーディング(2)	フォン・グローのスムーズシェーディングの原理について学ぶ。		①
6	モデリング(2)	ベジェ、スプライン曲線・曲面による3次元形状の表現方法について学ぶ。		①	15	シェーディング(3)	ラジオシティ法、フォトンマッピングについて学ぶ。		①
7	レンダリング(1)	奥行きソート法、Zバッファ法、スキャンライン法について学ぶ。		①	16	総復習	定期試験前の質問対応等		①
8	レンダリング(2)	陰影表現、照明モデル、テクスチャマッピングについて学ぶ。		①	17	定期試験			①
9	中間試験	後期の前半部分で講義を受けた内容が理解できているかを評価する。		①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評		①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計	
		—	20%	—	—	—	80%	100%	
		注意事項							
関連科目		画像処理工学、画像処理工学実習、基礎数学Ⅰ・Ⅱ、プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ							
使用教科書		・「コンピュータグラフィックス(技術編CG標準テキストブック)」 CG-ARTS協会							
参 考 書									
学生へのメッセージ		現在のテレビ放送や映画ではCG技術は必要不可欠です。CGの基礎は、数学です。図形処理の数学の基礎知識からはじめて、できるだけ分かりやすく説明するので、数学と技術内容を併せて理解できるようになってほしい。							

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼		
ネットワークプログラミング			情報システム技術科		B	2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼		
久我 守弘			時間講師室		2年前期	専門・実技		
授業概要		コンピュータ間でソケットを利用したTCP/IP通信を行うための仕組みを学び、実際にPython言語で通信プログラムを作成して動作を確認します。						
授業目標		1. Python言語によりネットワーク通信機能を持ったプログラムを制作できる。 2. 通信用の関数(socket、bind、listen、connect、accept、send、recv、sendto、recvfromなど)について理解している。 3. TCP、UDP、IPv4、IPv6の各プロトコルの基礎が理解できている。						
育成能力項目		グローバル力	○	応用力		継続力		
		技術者倫理		デザイン力		マネジメント力		
		◎ 基礎力		コミュニケーション力		チームワーク力		
科目No.	厚生労働省基準 ▼						訓練時間	
①	区 分	専攻実技	教 科	ソフトウェア工学実習			36	
②	区 分		教 科				0	
③	区 分		教 科				0	
授 業 計 画								
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略	科目No.
1	ガイダンス	シラバスの説明 演習環境の構築		①	10	アプリ開発(2)	データロガーシステム(1)	①
2	Python入門	Pythonによるプログラミングの基礎		①	11	アプリ開発(3)	チャットシステム	①
3	ソケット通信(1)	ソケットプログラミングの基礎		①	12	Webシステム(1)	HTTP通信(サーバ)	①
4	ソケット通信(2)	C言語とPython言語によるTCPソケットプログラミング		①	13	Webシステム(2)	HTTP通信(クライアント)	①
5	ソケット通信(3)	UDP通信とIPv6通信		①	14	Webシステム(2)	HTMLの解析	①
6	ソケット通信(4)	tcpdumpによるパケットの解析		①	15	Webシステム(3)	CGIの利用とGETメソッドによる通信	①
7	ソケット通信(5)	大容量ファイル転送への拡張		①	16	Webシステム(4)	CGIの利用とPOSTメソッドによる通信	①
8	ソケット通信(6)	マルチスレッドによる性能向上		①	17	非同期通信	asyncioによる非同期通信	①
9	アプリ開発(1)	データロガーシステム(1)		①	18	総括	学期を通じての講評、質疑応答等	①
評価方法と 評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計
		50%	—	50%	—	—	—	100%
		注意事項						
関連科目		ネットワーク工学、プログラミング言語Ⅰ、プログラミング言語実習Ⅰ、オペレーティングシステム、ネットワーク工学実習Ⅱ						
使用教科書		①「PythonによるTCP/IPソケットプログラミング」 小高知宏著 オーム社						
参 考 書		①「TCP/IPソケットプログラミングC言語編」 Michael J. Donahoo/Kenneth L. Calvert共著 オーム社 ②「猫でもわかるネットワークプログラミング」 桑井康孝著 ソフトバンククリエイティブ						
学生への メッセージ		通信プログラムの制作には、単にプログラミング言語のスキルだけではなく、OSの動作、通信プロトコル、ネットワーク、通信制御用の構造体、通信用の関数・ライブラリなどについての知識が要求されます。自分から積極的に勉強し、試行錯誤しながらプログラムを完成させることができるようになることを目指します。						

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼		
アルゴリズム実習				情報システム技術科		A		2		
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼		
糸川 剛				教員室Ⅱ		2年前期		専門・実技		
授業概要		講義「アルゴリズム」で学んだアルゴリズムとデータ構造などに関するプログラム作成実習を行います。与えられたアルゴリズムを元にC言語で実装を行います。条件分岐、反復、関数といったプログラム作成の基本、配列、リスト、ツリーといった基本的なデータ構造、ソート(整列)やサーチ(探索)といった基本的なアルゴリズムの実装を通して、アルゴリズムの理解をさらに深めます。また、作成したプログラムの動作時間を計測し、アルゴリズムの時間計算量との関係を学びます。								
授業目標		1. 理解したアルゴリズムをフローチャートとして表現できる。 2. 疑似言語などで表現されたアルゴリズムを元にC言語を用いてプログラムを作成できる。 3. アルゴリズムの時間計算量とアルゴリズムをもとに作成したプログラムの処理時間との関係を理解できる。								
育成能力項目		グローバル力		◎	応用力		継続力			
		技術者倫理			デザイン力		マネージメント力			
		基礎力		○	コミュニケーション力		チームワーク力			
科目No.		厚生労働省基準 ▼							訓練時間	
①	区 分	専攻実技	教 科	ソフトウェア工学実習				36		
②	区 分		教 科					0		
③	区 分		教 科					0		
授 業 計 画										
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.	
1	演習概要	シラバスの確認、実習環境の確認		①	10	整列アルゴリズム(3)	単純挿入法の実装と特殊なテストデータの作成	①		
2	連結リスト(1)	ユーザインタフェースの実装		①	11	整列アルゴリズム(4)	高度なソートアルゴリズムの紹介と実装(クイックソート)	①		
3	連結リスト(2)	連結リストへの登録アルゴリズム、全要素表示アルゴリズムの実装		①	12	整列アルゴリズム(5)	高度なソートアルゴリズムの紹介と実装(マージソート)	①		
4	連結リスト(3)	連結リストにおける探索アルゴリズムの実装		①	13	探索アルゴリズム(1)	高度なサーチアルゴリズムの紹介とその実装(2分探索)	①		
5	連結リスト(4)	ファイルからのデータ読み込み、ファイルへのデータ書き出し処理の実装		①	14	探索アルゴリズム(2)	高度なサーチアルゴリズムの紹介とその実装(2分探索木)登録アルゴリズム	①		
6	連結リスト(5)	テスト用データの生成アルゴリズム、および処理時間計測処理の実装		①	15	探索アルゴリズム(3)	高度なサーチアルゴリズムの紹介とその実装(2分探索木)なぞりのアルゴリズム	①		
7	技術レポート作成について	実習レポートを作成する際の注意等		①	16	探索アルゴリズム(4)	高度なサーチアルゴリズムの紹介とその実装(2分探索木)探索アルゴリズム	①		
8	整列アルゴリズム(1)	ユーザインタフェースの実装と処理時間計測処理の実装		①	17	探索アルゴリズム(5)	高度なサーチアルゴリズムの紹介とその実装(ハッシュ法)探索アルゴリズム	①		
9	整列アルゴリズム(2)	単純選択法、単純交換法の実装		①	18	総括	学期を通じての講評、質疑応答等	①		
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計		
		100%	—	—	—			100%		
		注意事項								
関連科目		プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ、プログラミング言語実習Ⅰ・Ⅱ、基礎数学Ⅱ、アルゴリズム								
使用教科書										
参 考 書		①「定本 Cプログラマのためのアルゴリズムとデータ構造」 近藤嘉雪 ソフトバンククリエイティブ								
学生へのメッセージ		プログラマを目指す学生にとっては、効率の良い、わかりやすいプログラムを書くことが大切です。そのためには、アルゴリズムやデータ構造に関する基本知識が必要です。講義「アルゴリズム」で学んだ内容を実際にC言語を用いて実装する実習を通じて、効率的なプログラムを作成することの重要性を体感して下さい。								

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼		
データベース実習Ⅱ			情報システム技術科		A	2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼		
糸川 剛			教員室Ⅱ		2年前期	専門・実技		
授業概要		情報システムの分野では、SQLを用いてデータベースを操作すること、ネットワークを介してそのデータベースを操作、活用する技術力が求められます。本講義では、PHP言語を用いたウェブアプリケーションの作成を行い、プログラミング技術を身に付けます。						
授業目標		1. MySQLやPHPなどWebデータベースシステムに必要なプログラムをインストールできる。 2. PHPを用いてデータベース操作するプログラムが作成できる。 3. セッション機能を活用したPHPプログラムが作成できる。						
育成能力項目		グローバル力	◎	応用力		継続力		
		技術者倫理	○	デザイン力		マネジメント力		
		基礎力	○	コミュニケーション力		チームワーク力		
科目No.	厚生労働省基準 ▼						訓練時間	
①	区 分	専攻実技	教 科	情報工学実習			36	
②	区 分		教 科				0	
③	区 分		教 科				0	
授 業 計 画								
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略	科目No.
1	講義概要	シラバスの説明、講義の目的と成績評価、LAMP		①	10	PHP+DB(1)	PDOを用いたデータベースへの接続	①
2	MySQL入門	MySQLのコマンドによる操作		①	11	PHP+DB(2)	クエリの実行、フォームから入力された値のDBへの登録	①
3	PHP(1)	PHPプログラムの動かし方 オブジェクトを使ったプログラミング		①	12	PHP+DB(3)	データの一覧表示とページング処理	①
4	PHP(2)	変数と連想配列		①	13	Webアプリ作成(1)	作成するアプリの仕様とデータベースの設計	①
5	PHP(3)	数値計算とファイル入出力		①	14	Webアプリ作成(2)	ログイン・ログアウト処理	①
6	PHP(4)	HTMLフォームからの値取得		①	15	Webアプリ作成(3)	データ登録画面、データ一覧表示画面	①
7	PHP(5)	セッション機能の利用		①	16	総復習	定期試験前の質問対応等	①
8	PHP(6)	ファイルのアップロード		①	17	定期試験		①
9	DB作成	データベースの作成		①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評	①
評価方法と 評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計
		—	50%	—	—	—	50%	100%
		注意事項						
関連科目		データベースⅠ・Ⅱ、データベース実習Ⅰ、サーバOS入門、ネットワーク工学						
使用教科書		①「よくわかるPHPの教科書 PHP7対応版」 たにぐちまこと マイナビ出版						
参 考 書		①「IT Text データベース」 速水治夫・宮崎収兄・山崎晴明 オーム社						
学生への メッセージ		MySQLとPHPを用いてWebデータベース設計・構築の基礎を実習を通じて学びます。この構築にあたっては、答はひとつではありません。積極的に様々な情報を調べたり、自分なりに工夫して、“オンリーワン”のシステム構築をぜひ目指してください。						

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼		
ネットワーク工学実習Ⅱ			情報システム技術科		A	2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼		
坂田 聡			教員室Ⅱ		2年前期	専門・実技		
授業概要		ネットワーク機器を用いて企業で使っている単一ネットワークおよび複数のネットワークから構成されるサイトを構築します。また、ネットワークの冗長化について学びます。						
授業目標		1. ルーティングテーブルが理解できる。 2. フォワーディングが理解できる。 3. 複数のネットワークからなるシステム内の通信ができる。						
育成能力項目		グローバル力	◎	応用力		継続力		
		技術者倫理		デザイン力		マネジメント力		
		基礎力	○	コミュニケーション力	○	チームワーク力		
科目No.	厚生労働省基準 ▼						訓練時間	
①	区 分	専攻実技	教 科	データ通信実習			36	
②	区 分		教 科				0	
③	区 分		教 科				0	
授 業 計 画								
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略	科目No.
1	IP機能	IP機能、IPアドレスの割当て		①	10	DNSサーバ構築(1)	順引きマスターファイルの作成	①
2	IPフォワーディング	カーネルパラメータを設定してIPフォワーディングを有効にする		①	11	DNSサーバ構築(2)	逆引きマスターファイルの作成	①
3	ルーティングテーブル(1)	複数のNICをもつルータを作成しルーティングテーブルを理解する		①	12	DNSサーバ構築(3)	新たなネットワークへのDNSサーバの設置	①
4	ルーティングテーブル(2)	複数のNICをもつルータを作成しルーティングテーブルを理解する		①	13	DNSサーバ構築(4)	異なるネットワークに属するDNSサーバ間の連携	①
5	異なるネットワーク間接続(1)	複数ルータで構成されるネットワークを作成しネットワーク間接続を行う		①	14	メールサーバ構築(1)	メールサーバの送信を行うSMTP、受信を行うPOPの仕組み	①
6	異なるネットワーク間接続(2)	複数ルータで構成されるネットワークを作成しネットワーク間接続を行う		①	15	メールサーバ構築(2)	メールをローカルなユーザに送信する	①
7	インターネット接続	インターネット接続に必要なゲートウェイの設定		①	16	MXレコード	メールの送受信に必要なMXレコードの設定	①
8	ファイアウォール	今回のネットワークで必要となるファイアウォールの設定を行う		①	17	定期試験	筆記試験	①
9	DNSサーバとは	DNSサーバの順引き、逆引きの仕組み		①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評	①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計
		—	—	—	60%	—	40%	100%
		注意事項						
関連科目		ネットワーク工学、ネットワーク工学実習Ⅰ・Ⅲ、ネットワークプログラミング、情報セキュリティⅠ・Ⅱ、クラウドシステム、ネットワーク施工実習						
使用教科書								
参 考 書		①「DNS&BIND」 Paul Albiz著 オライリー・ジャパン						
学生へのメッセージ		情報関連の企業に就職したらサーバを構築する仕事を任される機会は必ずと言っていいほどあります。実際に使えるシステムを作ることは楽しいことです。実機を使って行う貴重な実習です。						

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼				履修区分 ▼		単位数 ▼	
先端情報技術研究				情報システム技術科				A		4	
担 当 教 員				代表教員室 ▼				開 講 期 ▼		区 分 ▼	
情報誌システム技術科 全員				教員室Ⅱ				2年前期		専門・実技	
授業概要		本実習では、情報系企業の最新技術などを調査し、先端の情報技術について学びます。加えて、テーマに沿ってグループワークとして、情報技術の調査報告を行い、先端情報の技術習得を行ないます。									
授業目標		1. 情報系企業活動の分析を行うことで、最新技術の動向を説明できる。 2. 情報系の最新技術の一部を組み込んだプログラムを作成できる。 3.									
育成能力項目		グローバル力		○	応用力		○	継続力			
		技術者倫理		◎	デザイン力		○	マネージメント力			
		基礎力		○	コミュニケーション力		○	チームワーク力			
科目No.	厚生労働省基準 ▼									訓練時間	
①	区 分	専攻実技	教 科							72	
②	区 分		教 科							0	
③	区 分		教 科							0	
授 業 計 画											
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.		
1	企業技術情報調査(1)	グループワーク(企業調査)		①	10	最新技術調査(1)	最新の情報技術の調査(1)		①		
2	企業技術情報調査(2)	グループワーク(企業の技術調査)		①	11	最新技術調査(2)	最新の情報技術の調査(2)		①		
3	企業技術情報調査(3)	グループワーク(企業の技術調査とまとめ)		①	12	最新技術調査(3)	グループワーク(最新の情報技術の調査のまとめ)		①		
4	企業技術情報調査(4)	グループワーク(企業の技術調査の報告)		①	13	最新技術調査(4)	興味ある最新情報技術を選ぶ		①		
5	企業技術情報調査(5)	情報技術の分類解析		①	14	最新技術調査(5)	興味ある最新情報技術の技術的調査		①		
6	企業技術情報調査(6)	情報技術の分類解析結果の報告		①	15	技術実装(1)	興味ある最新情報技術の基礎調査		①		
7	企業技術情報調査(7)	興味のある企業の情報技術を選ぶ		①	16	技術実装(2)	興味ある最新情報技術の応用(1)		①		
8	企業技術情報調査(8)	興味のある企業の情報技術を詳しく調査		①	17	技術実装(3)	興味ある最新情報技術の応用(2)		①		
9	企業技術情報調査(9)	レポート作成(興味の有る企業技術に関する報告)		①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評		①		
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計			
		100%	—	—	—	—	—	100%			
		注意事項									
関連科目		キャリア形成、職業能力基礎演習、先端情報工学実習									
使用教科書											
参 考 書		①「マイロード21」 就職指導研究会 著 実教出版 ②「就職四季報」 東洋経済新報社									
学生へのメッセージ		この実習は、様々な企業の技術を分析することで、企業分析につながり、就職活動に役に立ちます。また、最新の技術調査は、卒業研究につながる重要な科目です。しっかりと予習や復習を行なってください。									

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼
図形処理工学実習			情報システム技術科		A	2
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼
里中 孝美			時間講師室		2年前期	専門・実技
授業概要		図形処理基礎で学んだ知識をベースに、OpenGLの3次元ライブラリとC言語を用いて、プログラムを作成します。基本3次元モデル、幾何変換、モデルの作成、レンダリング、テクスチャマッピング、スプラインによる自由曲線の表現、マウスを用いたグラフィックユーザインターフェースの画面設計の手法を学びます。各種物理法則のシミュレーションやオリジナルなCG作品を制作することを目的とします。				
授業目標		1. 3次元のモデル作成と幾何変換の手法を用いてOpenGLのプログラムを作成できる。 2. 光源、質感設定等のレンダリングを用いた図形描画プログラムを作成できる。 3. イベント処理を用いてGUIグラフィックユーザインターフェースを設計できる。				
育成能力項目		グローバル力	◎	応用力		継続力
		技術者倫理		デザイン力	○	マネージメント力
		○ 基礎力		コミュニケーション力		チームワーク力
科目No.	厚生労働省基準 ▼					訓練時間
①	区 分	専攻実技	教 科	図形処理実習		36
②	区 分		教 科			0
③	区 分		教 科			0
授 業 計 画						
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目	
					内容概略	
1	講義概要	本講義の進め方、最新CGの制作の手法について講義する。		①	10 陰面消去	Z バッファの陰面消去等の手法を実習する。
2	OpenGL入門	OpenGL を用いたイベント駆動型のプログラムの手法について実習する。		①	11 光源の設定	光源の色、位置、方向を設定し、物体の陰影付けについて実習する。
3	基本図形	点、線、多角形による基本図形を描画する方法について実習する。		①	12 物質の設定	照光時における物体の反射光をモデル化し、物質の質感を設定する。
4	座標系と投影法	ワールド座標系の3次元物体をスクリーン座標系に投影する。		①	13 テクスチャマッピング	3次元形状の表面に画像を貼り付けることによって表面の色や質感を細かく設定する。
5	幾何変換	3 次元物体の平行移動、回転、拡大・縮小の操作について実習する。		①	14 形状表現	スプライン曲線、ベジェ曲線、ベジェ曲面を用いて3次元形状を作成する。
6	アニメーション(1)	3次元形状の位置などのパラメータ設定方法について実習する。		①	15 自由課題の作成	3ds Maxを使用して基本モデルの作成、オブジェクト操作について実習する。
7	アニメーション(2)	アニメーションを用いたオリジナルCG作品を制作する		①	16 総復習	定期試験前の質問対応等
8	イベント処理(1)	マウスとキーボードを用いたイベント処理を実習する。		①	17 定期試験	
9	イベント処理(2)	マウスとキーボードを用いたGUIの画面を作成する		①	18 総括	定期試験の解説、学期を通じての講評
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他
		—	—	—	—	20%
		注意事項				
関連科目		画像処理工学、画像処理工学実習、基礎数学Ⅰ・Ⅱ、プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ				
使用教科書		・「OpenGLによる3次元CGプログラミング」 林武文、加藤清敬 コロナ社				
参 考 書						
学生へのメッセージ		本実習では、教科書の演習課題を実践することによって進めます。実践した課題は、毎回の実習終了時に提出します分からない点を見つけたら積極的に質問し、本実習の時間内で解決するようにしてください。プログラミングは経験を重ね様々なプログラムを作成することで、その能力が向上します。そのため、この授業は実際のプログラムを多く作成することを目的とした授業です。				

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼	
マルチメディア工学実習Ⅰ				情報システム技術科		A		2	
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼	
糸川 剛				教員室Ⅱ		2年前期		専門・実技	
授業概要		Webを中心としたマルチメディアの基礎として、HTMLとCSSによるWebコンテンツ作成の基礎を学びます。Webコンテンツを表示するコンピュータがパソコンかスマートフォンかで表示画面の縦横比や解像度が著しくことになります。そのような場合にコンテンツの表示方法を変化させる手法についても学びます。							
授業目標		1. HTMLおよびCSSの役割と基礎的な利用法について説明できる。 2. HTML内の画像などのマルチメディアデータの要素について説明できる。 3. CSSフレームワークとその活用について説明できる。							
育成能力項目		グローバル力		◎	応用力		継続力		
		技術者倫理			デザイン力		マネージメント力		
		基礎力		○	コミュニケーション力		チームワーク力		
科目No.	厚生労働省基準 ▼							訓練時間	
①	区 分	専攻実技	教 科	図形処理実習				36	
②	区 分		教 科					0	
③	区 分		教 科					0	
授 業 計 画									
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.
1	講義概要	シラバスの説明、実習環境の確認		①	10	HTML+CSS (1)	基本レイアウトの作成		①
2	Webの基本	Webサーバとブラウザ		①	11	HTML+CSS (2)	IMGタグと要素の回り込み		①
3	HTML(1)	HTMLファイルの作成		①	12	HTML+CSS (3)	フォントの活用		①
4	HTML(2)	基本的なHTMLタグ		①	13	スマホ対応	レスポンシブWebデザイン、リキッドレイアウト		①
5	HTML(3)	METAタグと文字コード		①	14	CSSフレームワーク(1)	Bootstrap、グリッドシステムを用いたレイアウトコントロール		①
6	CSS(1)	セレクトとプロパティ		①	15	CSSフレームワーク(2)	フォームの見栄えの統一、ラベルを用いた利便性の向上		①
7	CSS(2)	CSSの記述場所、インライン、内部参照、外部参照		①	16	総復習	定期試験前の質問対応等		①
8	CSS(3)	CSSのノーマライズ、リセット		①	17	定期試験			①
9	中間試験			①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評		①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計	
		—	50%	—	—	—	50%	100%	
		注意事項							
関連科目		サーバOS入門、データベースⅡ、データベース実習Ⅱ、画像処理工学、画像処理工学実習、図形処理工学、図形処理工学実習、マルチメディア工学実習Ⅱ							
使用教科書		①「これからWebをはじめの人のHTML＆CSS, JavaScriptのきほんのきほん」 たにぐちまこと マイナビ出版							
参 考 書		①「HTML5 & CSS3ポケットリファレンス 改訂新版」 森史憲・藤本吉 技術評論社 ②「ゲームで学ぶJavaScript入門 HTML5 & CSSも身に付く！」 田中 賢一郎 インプレス							
学生へのメッセージ		HTMLやCSSといったWeb技術はICT分野の中でも変化が著しく、就職しても常に最新技術を習得し続ける必要があります。今後の最新技術に対応できるようまずはしっかり基礎を身に付けましょう。							

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼				履修区分 ▼		単位数 ▼		
マルチメディア工学実習Ⅱ				情報システム技術科				A		2		
担 当 教 員				代表教員室 ▼				開 講 期 ▼		区 分 ▼		
山本 浩貴				教員室Ⅱ				2年前期		専門・実技		
授業概要		1990年代から普及した、新しいマルチメディアの活用技術であるWeb技術は注目を集め、そのコンテンツは急速に普及している。特にマーケティングにおいては大きく成長し、eビジネスのシェアはリアルビジネスのシェアを大きく上回る規模まで成長している。そのWeb技術の中でもJavaScriptは他の言語とは違うユニークな働きで、普及当時技術者や人々の注目を集めた。ビジネス分野の活用技術の大きな要素を占めるようになったHTML5とJavaScriptによるWeb技術を学習する。学習に当たってはTBL(チーム基盤型学習法)で進める。										
授業目標		1. HTML5によるコンテンツが作成できる。 2. JavaScriptを使ったプログラムが作成できる。 3. Webサイトが構築できる。										
育成能力項目		グローバル力		○	応用力			継続力				
		技術者倫理		○	デザイン力			マネージメント力				
		基礎力		○	コミュニケーション力		○	チームワーク力				
科目No.		厚生労働省基準 ▼									訓練時間	
①	区 分	専攻実技	教 科	図形処理実習						36		
②	区 分		教 科							0		
③	区 分		教 科							0		
授 業 計 画												
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.			
1	オリエンテーション	講義の進め方、成績評価、Webの歴史		①	10	JavaScript(7)	配列の活用		①			
2	JavaScript(1)	HTMLとJavaScriptとは		①	11	JavaScript(8)	イベントドリブン(HTMLによるイベントドリブンとJavaScriptによるイベントドリブン)		①			
3	JavaScript(2)	表とフォトギャラリーの作成		①	12	JavaScript(9)	イベントリスナーとスタイルの変更		①			
4	JavaScript(3)	変数と演算		①	13	JavaScript(10)	インラインフレームの活用		①			
5	JavaScript(4)	データの入力と条件分岐		①	14	JavaScript(11)	YouTubeとマップの活用		①			
6	JavaScript(5)	繰り返し処理(forループ)		①	15	課題制作(1)			①			
7	JavaScript(6)	繰り返し処理(入れ子によるforループ)		①	16	課題制作(2)			①			
8	JavaScript(7)	様々な繰り返し処理(whileとdo while)		①	17	課題発表			①			
9	JavaScript(8)	関数の活用		①	18	総括	講義の振り返り		①			
評価方法と 評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計				
		—	—	70%	30%	—	—	100%				
		注意事項										
関連科目		サーバOS入門、データベースⅡ、データベース実習Ⅱ、マルチメディア工学実習Ⅰ、画像処理工学、画像処理工学実習、図形処理工学、図形処理工学実習、電気回路										
使用教科書		①自作資料 ②「これからWebをはじめると人のHTML＆CSS、JavaScriptnoきほんのきほん」たにぐちまこと マイナビ出版										
参 考 書		①新しいWebデザインの教科書(株式会社エスシーシー) ②新しいJavaScriptの教科書(株式会社エスシーシー)										
学生への メッセージ		日常生活で最も目にして触れているマルチメディア技術がWebコンテンツです。就職して、作ったり修正する機会も多くなると 思います。基礎的な技術は身に付けてほしいと思います。										

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼	
人工知能技術Ⅱ				情報システム技術科		B		2	
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼	
未定				教員室Ⅱ		2年前期		専門・学科	
授業概要		本科目は、Pythonを用いて、AI、特に機械学習をプログラミングし実践的に学びます。 Pythonの基本文法、プログラミング手法などの基礎から学ぶことができます。 機械学習の基礎的理解から様々な手法までを学び、実例を通じて、多くのプログラムを作成、実行することで、理解を深めることができます。							
授業目標		1. 機械学習を含んだプログラムを作成できる。 2. クラスタリング処理を含んだプログラムを作成できる。 3. 画像処理を含んだプログラムを作成できる。							
育成能力項目		グローバル力		◎	応用力		○	継続力	
		技術者倫理			デザイン力			マネジメント力	
		○ 基礎力			コミュニケーション力			チームワーク力	
科目No.		厚生労働省基準 ▼							訓練時間
①	区 分	専攻学科	教 科	図形処理実習					36
②	区 分		教 科						0
③	区 分		教 科						0
授 業 計 画									
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.
1	ガイダンス	人工知能技術Ⅰの復習		①	10	回帰(1)	線形回帰、回帰モデルの評価、正規化		①
2	環境設定(1)	Wekaを用いた機械学習		①	11	回帰(2)	バイアス、回帰木、モデル木		①
3	環境設定(2)	Pythonによる機械学習		①	12	サポートベクトルマシン(1)	サポートベクトルマシンとは、ソフトマージンによる誤識別データの吸収		①
4	概念理解(1)	概念学習とバイアス、決定木の学習		①	13	サポートベクトルマシン(2)	カーネル関数を用いたSVM、文書分類問題へのSVMの適用		①
5	概念理解(2)	数値特徴に対する決定木		①	14	ニューラルネットワーク(1)	フィードフォワード型ニューラルネットワーク		①
6	統計的手法(1)	カテゴリ特徴に対するベイズ識別		①	15	ニューラルネットワーク(2)	ニューラルネットワークの深層化		①
7	統計的手法(2)	ベイジアンネットワーク		①	16	総復習	レポート等の対応		①
8	生成モデルと識別モデルー(1)	生成モデル		①	17	期末試験	筆記試験		①
9	生成モデルと識別モデルー(2)	識別モデル		①	18	講評	期末試験の解説		①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計	
		—	—	—	—	—	100%	100%	
		注意事項							
関連科目		ネットワークプログラミング、図形処理工学、図形処理工学実習、画像処理工学、画像処理工学実習、データリテラシ							
使用教科書		「フリーソフトではじめる機械学習入門」 荒木雅弘 森北出版							
参 考 書		「Pythonで動かして学ぶ！あたらしい機械学習の教科書」 伊藤 真 翔泳社							
学生へのメッセージ		この講義は、十分な復習を行い、理解が浅いと思われる分野については、随時、講師に質問して下さい。加えて、復習だけではなく、予習を必ず行って下さい。予習・復習の目安として60時間の自学を行って下さい。							

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼				履修区分 ▼		単位数 ▼									
卒業研究				Ⅰ 群[機械]・Ⅱ 群[電子・情報]				A		4									
担 当 教 員				代表教員室 ▼				開 講 期 ▼		区 分 ▼									
各科教員								2年前期		専門・実技									
授業概要		これまでに修得してきた知識と技術を基礎として、与えられたテーマについて、問題点の検討から解決まで自主的に取り組みます。これを通じて発想力、設計製作能力、日程管理能力、チームプレイ能力および得られた成果を説明する能力を身につけます。																	
授業目標		1. 取組む課題に対して、その解決のために必要な情報を収集する能力を身に付けることができる。 2. 取組む課題に対する自分なりの解決策を提案することが理解できる。 3. 課題に対する解決案を実行できる。																	
育成能力項目		○	グローバル力	◎	応用力	○	継続力	○	技術者倫理	○	デザイン力	○	マネージメント力	○	基礎力	○	コミュニケーション力	○	チームワーク力
科目No.		厚生労働省基準 ▼													訓練時間				
①	区 分	専攻実技	教 科											72					
②	区 分		教 科											0					
③	区 分		教 科											0					
授 業 計 画																			
授業項目			内容概略			科目No.	授業項目			内容概略			科目No.						
1	計画(1)	ガイダンスおよび研究テーマの決定			①	10	調査(4)	研究テーマに関連する情報収集			①								
2	計画(2)	ガイダンスおよび研究テーマの決定			①	11	基礎準備(1)	研究テーマに関連する基礎技術の習得			①								
3	検討(1)	研究テーマに関する問題点の把握			①	12	基礎準備(2)	研究テーマに関連する基礎技術の習得			①								
4	検討(2)	研究テーマに関する問題点の把握			①	13	基礎準備(3)	研究テーマに関連する基礎技術の習得			①								
5	検討(3)	研究テーマに関する問題点の把握			①	14	基礎準備(4)	研究テーマに関連する基礎技術の習得			①								
6	検討(4)	研究テーマに関する問題点の把握			①	15	基礎実験(1)	研究テーマに関連する基礎的実験			①								
7	調査(1)	研究テーマに関連する情報収集			①	16	基礎実験(2)	研究テーマに関連する基礎的実験			①								
8	調査(2)	研究テーマに関連する情報収集			①	17	基礎実験(3)	研究テーマに関連する基礎的実験			①								
9	調査(3)	研究テーマに関連する情報収集			①	18	基礎実験(4)	研究テーマに関連する基礎的実験			①								
評価方法と 評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計											
		—	—	—	50%	30%	20%	100%											
		注意事項																	
関連科目		全科目																	
使用教科書		適宜																	
参 考 書		適宜																	
学生への メッセージ		卒業研究では、研究の目的を十分理解しておくことが大切です。目的がはっきりしていなければ、問題を解決することができません。指導教員から指示を促されることのない、自主的な推進を望みます。指導教員とともによい研究成果をあげてください。																	

4. 教科 [2年後期]

				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼	
技術者と社会				Ⅰ 群[機械]・Ⅱ 群[電子・情報]		B		2	
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼	
井寺 美穂				時間講師室		2年後期		一般教養	
授業概要		本授業では、社会における技術者の役割や責任について学びます。私たちは、科学技術が広範に、そして深く社会に影響を与える時代に生きています。そのような時代の技術者には、専門領域に関する高い知識や能力だけではなく、幅広い教養や高い倫理観、コミュニケーション能力等が求められています。本授業では、科学技術の分野における倫理問題の分析や検討、発表や討論等を通じて、倫理問題への理解と具体的な対応力を涵養します。							
授業目標		1. 社会における技術者の役割やその関係性を認識し、技術者の責任と倫理について理解する。 2. 技術者として必要な法規範に関する基礎的知識を身につけ、そのことを適切に説明できる。 3. 技術者の専門的能力が社会へ及ぼすリスクを自覚し、そのことを適切に説明できる。							
育成能力項目			グローバル力		応用力		継続力		
	○		技術者倫理		デザイン力		マネージメント力		
	◎		基礎力		コミュニケーション力		チームワーク力		
科目No.	厚生労働省基準 ▼								訓練時間
①	区 分	一般教養	教 科						36
②	区 分		教 科						0
③	区 分		教 科						0
授 業 計 画									
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.
1	技術者と倫理1	シラバスの説明・オリエンテーション、倫理とは何か		①	10	製造物責任	過失責任と無過失責任、製造物責任法(PL法)、【事例】カネミ油症事件		①
2	技術者と倫理2	技術者倫理とは何か、技術者のアイデンティティ、【事例】雪印乳業食中毒事件		①	11	知的財産権1	知的財産権とは何か、知的財産法、特許権		①
3	技術者と倫理3	組織のなかの個人の役割、安全文化、【チャレンジャー号事件】		①	12	知的財産権2	著作権 身の回りの著作物の利用、引用手順		①
4	技術者と法律1	法とは何か、日本の法体系		①	13	技術者と環境1	環境倫理とは何か、持続可能性とSDGs、グループ課題の提示、グループ分け		①
5	技術者と法律2	事故責任の仕組み 技術者の法的責任		①	14	技術者と環境2	課題探求の手法 グループワーク①		①
6	技術者と労働1	組織のなかの技術者 労働三法と労働三権		①	15	技術者と環境3	問題解決に手法 グループワーク②		①
7	技術者と労働2	内部告発 【事例】東京電力データ改ざん事件		①	16	総復習	定期試験前の演習・質疑応答		①
8	リスク マネジメント	リスクとは何か、ヒューマンエラー、リスクコミュニケーション、【事例】JCO臨界事故		①	17	定期試験	定期試験実施		①
9	説明責任	説明責任と信頼関係、【事例】三菱自動車ハブ欠陥事件、※中間テストの実施		①	18	総括	定期試験評価及び講評		①
評価方法と 評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習		実 技	その他	定期試験	合 計
		60%	20%	—		—	20%	—	100%
		注意事項		その他(20%)は、グループ発表の成果およびグループ活動への貢献度に応じて採点します。					
関連科目									
使用教科書		特定の教科書は使用しない。 毎回、下記の参考書等をもとに作成した授業スライドを使用して授業を行う。授業スライドを印刷したものを資料として配布する予定である。							
参 考 書		①「第五版 大学講義 技術者の倫理 入門」、杉本泰治・高城重厚、丸善出版株式会社、2016年、②「JABEE対応 技術者倫理入門」、小出泰士、丸善出版株式会社、2010年、③「技術者による実践的工学倫理 第4版」、一般社団法人近畿化学協会・工学倫理研究会(編)、(株)化学同人、2019年、④「新しい時代の技術者倫理」、札野順、一般財団法人 放送大学教育振興会、2015年							
学生への メッセージ		本授業を通して、社会の期待に応えることができる技術者になるためには、どうすればよいのかについて一緒に考えていきましょう。							

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼			履修区分 ▼		単位数 ▼		
英語Ⅳ			Ⅰ 群[機械]・Ⅱ 群[電子・情報]			B		2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼			開 講 期 ▼		区 分 ▼		
丸野・林・井上・吉井			時間講師室			2年後期		一般教養		
授業概要		旅行に行く際に必要な語彙、フレーズなどをシーン別に学習し、シンプルな表現を繰り返し練習をすることで身につけていきます。また、海外旅行で知っていると便利なマメ知識も取り入れていきます。								
授業目標		1. 繰り返しのロールプレイングで声を出すことにより、簡単なフレーズを自然に言うことが出来る。 2. 海外の生活や文化についても学習し、海外に興味を持つことが出来る。 3. ペアワーク・グループワークを通して十分なコミュニケーションを取ることが出来る。								
育成能力項目		◎	グローバル力			応用力		○	継続力	
			技術者倫理			デザイン力			マネージメント力	
			基礎力		○	コミュニケーション力		○	チームワーク力	
科目No.	厚生労働省基準 ▼								訓練時間	
①	区 分	一般教養	教 科						36	
②	区 分		教 科						0	
③	区 分		教 科						0	
授 業 計 画										
授業項目			内容概略		科目No.	授業項目			内容概略	科目No.
1	機内で	シラバスの説明・On the Plane(～をお願いします)			①	10	確認テスト2	プレゼンテーション発表		①
2	両替所で	At the Currency Exchange(～したいのですが)【単語テスト⑮】			①	11	買い物1	Shopping1(～してもいいですか)【単語テスト⑳】		①
3	ホテルで1	At the Hotel1(～していただけますか)【単語テスト⑯】			①	12	買い物2	Shopping2(～を探しているのですが)【単語テスト㉑】		①
4	ホテルで2	At the Hotel2(～はありますか)【単語テスト⑰】			①	13	郵便局で	At the Post Office(～はいくらですか)【単語テスト㉒】		①
5	電車/バスで	On the Train/Bus(これは～しますか)【単語テスト⑱】			①	14	観光2	Sightseeing2(～はありますか)【単語テスト㉓】		①
6	観光1	Sightseeing1(～はどこですか)【単語テスト⑲】			①	15	レストランで	At the Restaurant(～をもらえますか)【単語テスト㉔】		①
7	確認テスト1	Unit1からUnit6について確認			①	16	総復習	定期試験前の演習・質疑応答		①
8	プレゼンテーション	1つのテーマについて情報収集、プレゼンテーションの組み立、原稿作成、発表まで行う。			①	17	定期試験	定期試験実施		①
9	プレゼンテーション				①	18	総括	定期試験評価及び講評		①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計		
		—	60%	—	—	10%	30%	100%		
		注意事項								
関連科目		英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ								
使用教科書		①「My First Trip」 著者 Tae Kudo CENGAGE Learning ②「TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ」 著者 TEX加藤 朝日新聞出版								
参 考 書										
学生へのメッセージ		旅行英会話だけでなく、外国の文化や習慣などについても知ることが出来ます。海外旅行をしたつもりで、楽しみながら学習しましょう。								

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼				履修区分 ▼		単位数 ▼			
生産工学				情報システム技術科				A		2			
担 当 教 員				代表教員室 ▼				開 講 期 ▼		区 分 ▼			
未定				教員室 I				2年後期		基礎・学科			
授業概要		企業におけるものづくりの概要、特に製造業の中心的な活動である生産管理の基本と統計的手法を中心とした品質管理について学習します。 併せて、将来職場のリーダーとして活躍できるように企業活動の広範囲な基礎知識を学びます。											
授業目標		1. 生産とは、管理とは、組織とは、などの生産の基本的な用語、内容が理解できる。 2. 生産の基本的な計画、工程管理、家業研究、資材管理、安全衛生管理、人事管理などが理解できる。 3. 品質管理の手法であるQC七つ道具となぜなぜ分析などが理解できる。											
育成能力項目		○	グローバル力				応用力				継続力		
		○	技術者倫理				デザイン力			◎	マネージメント力		
		○	基礎力				コミュニケーション力				チームワーク力		
科目No.		厚生労働省基準 ▼									訓練時間		
①	区 分	系基礎学科	教 科		生産工学					36			
②	区 分		教 科							0			
③	区 分		教 科							0			
授 業 計 画													
授業項目			内容概略			科目No.	授業項目			内容概略			科目No.
1	ガイダンス	シラバスの説明と企業活動の概要説明			①	10	品質管理③	特性要因図の活用演習			①		
2	開発業務	製品企画			①	11	品質管理④	品質管理②			①		
3	生産業務	工程管理			①	12	工場会計①	原価管理①			①		
4	作業研究	作業と設備の管理			①	13	工場会計②	原価管理②			①		
5	資材管理①	資材の役割①			①	14	安全衛生	安全衛生			①		
6	資材管理②	資材の役割②			①	15	環境	環境管理			①		
7	品質管理①	品質管理①			①	16	総復習	1～15のふり返り			①		
8	品質管理②	QC七つ道具となぜなぜ分析の概要説明			①	17	定期試験	定期試験実施			①		
9	中間試験	中間試験			①	18	総括	定期試験の解説、学期を通じての講評			①		
評価方法と 評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習		実 技		その他		定期試験	合 計		
		—	50%	—		—		—		50%	100%		
		注意事項											
関連科目		安全衛生工学											
使用教科書		①「QC七つ道具がよ～くわかる本」 今里 健一郎 秀和システム											
参 考 書													
学生への メッセージ		本科目では生産現場で必要となるものづくりの基本知識を学びます。企業人として知っておくべき生産管理と品質管理に関する基本的な概念、手法、用語を理解していただき、重要な用語や手法については日常的に使えるようになってください。授業は教科書の要点をまとめたパワーポイントを基に進めます。生産工学の基礎を身につけて、将来職場のリーダーとして活躍できる人材になることを期待します。											

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼
数値計算実習			情報システム技術科		B	2
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼
菅原 智裕			教員室Ⅱ		2年後期	基礎・実技
授業概要		数値計算法は、コンピュータを用いて数学問題を解決・処理するアルゴリズムであり、数学の応用上で数式を解析的に(公式で)解けない、または、直ちに解けない場合、誤差許容範囲で近似値を求める方法である。本科目は、連立方程式、テイラー級数による近似計算、方程式の解法、多項式関数による補間と近似、数値積分法、常微分方程式解法などの数値計算アルゴリズムについて学び、実際にC言語、Excel、Python言語を用いて、アルゴリズムを実装と検証する。				
授業目標		1. 基本的な数値計算法のアルゴリズムが理解できる。 2. 数値計算法のアルゴリズムをもとにPython言語で実装できる。 3. コンピュータで数値計算を行う場合に生じる誤差について理解でき、処理することができる。				
育成能力項目		グローバル力	◎	応用力	継続力	
		技術者倫理	○	デザイン力	マネジメント力	
		基礎力		コミュニケーション力	チームワーク力	
科目No.	厚生労働省基準 ▼					訓練時間
①	区 分	系基礎実技	教 科	情報数学演習		36
②	区 分		教 科			0
③	区 分		教 科			0
授 業 計 画						
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目 内容概略 科目No.	
1	数値計算法の概論	数値計算の基礎知識、浮動小数点、誤差		①	10 連立方程式の解法(5)	①
2	Python基礎	Pythonによるプログラミングの基礎		①	11 関数近似と補間(1)	①
3	非線形方程式(1)	二分法による非線形方程式の解法		①	12 関数近似と補間(2)	①
4	非線形方程式(2)	ニュートン法による非線形方程式の解法		①	13 数値積分法(1)	①
5	非線形方程式(3)	はさみうち法による非線形方程式の解法		①	14 数値積分法(2)	①
6	連立方程式の解法(1)	ガウス・ジョルダン法による連立一次方程式の解法		①	15 常微分方程式	①
7	連立方程式の解法(2)	LU分解の考え方		①	16 レポート作成	①
8	連立方程式の解法(3)	LU分解による連立一次方程式の解法		①	17 応用	①
9	連立方程式の解法(4)	ヤコビ法による連立一次方程式の解法		①	18 総括	①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他
		100%	—	—	—	—
		注意事項	アルゴリズムを理解した上で、コンピュータで実装できることを目指します。			
関連科目		アルゴリズム、アルゴリズム実習、プログラミング言語Ⅰ、プログラミング言語実習Ⅰ、プログラミング言語Ⅱ、プログラミング言語実習Ⅱ、基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱ、応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ				
使用教科書		自作テキスト				
参 考 書		①「Pythonによる数値計算法の基礎」 橋本修・毛塚敦 森北出版 ②「C言語による数値計算入門」 皆本 晃弥著 サイエンス社				
学生へのメッセージ		1年次に学習した数学的問題(線形代数、積分など)をコンピュータで解くにはどうすればよいのか、実際にプログラムを作成して動作を検証しながら、その理論を学びます。数学的知識に加え、数値計算のアルゴリズムを考える能力、C言語、Pythonの実装能力等、総合力が問われる科目です。講義に先立ち、関連科目にあげた内容をよく復習しておいてください。				

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼		
ソフトウェア工学実習				情報システム技術科		A		2		
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼		
宮川 真理子、他				時間講師室		2年後期		基礎・実技		
授業概要		2年前期までに学んだ情報処理技術を用いて、実際の情報処理システムの開発工程のうち、要件定義、外部設計、内部設計、テスト設計の各工程を実践します。								
授業目標		1. システム要件を正しく理解できる。 2. 要件定義、外部設計、内部設計、テスト設計の各工程の設計書(仕様書)を作成することができる。 3. 仕様書にもとづいてレビューを行い、自分たちが設計した意図を明確に相手に伝えることができる。								
育成能力項目		グローバル力		◎	応用力			継続力		
		技術者倫理		○	デザイン力		○	マネジメント力		
		基礎力		○	コミュニケーション力			チームワーク力		
科目No.		厚生労働省基準 ▼							訓練時間	
①	区 分	系基礎実技	教 科	ソフトウェア工学基本実習					36	
②	区 分		教 科						0	
③	区 分		教 科						0	
授 業 計 画										
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.	
1	概要説明	実習概要、実習で設計する情報システムについての説明		①	10	外部設計(4)	外部設計書を作成する		①	
2	要件定義(1)	顧客役の担当教員へヒアリングする、要件定義書を作成する		①	11	レビュー	外部設計書を相互レビューし、疑問点は担当教員へ確認して結果を反映する。		①	
3	要件定義(2)	要件定義書を作成する		①	12	内部設計・テスト設計(1)	内部設計書(データベース設計)・テスト仕様書を作成する		①	
4	要件定義(3)	要件定義書を作成する		①	13	内部設計・テスト設計(2)	内部設計書(データベース設計)・テスト仕様書を作成する		①	
5	要件定義(4)	要件定義書を作成する		①	14	内部設計・テスト設計(3)	内部設計書(データベース設計)・テスト仕様書を作成する		①	
6	レビュー	要件定義書を相互レビューし、疑問点は教員へ確認して結果を反映する		①	15	内部設計・テスト設計(4)	内部設計書(データベース設計)・テスト仕様書を作成する		①	
7	外部設計(1)	外部設計書を作成する		①	16	レビュー	内部設計書・テスト仕様書を相互レビュー、疑問点は教員へ確認して結果を反映する		①	
8	外部設計(2)	外部設計書を作成する		①	17	課題(1)	課題提出		①	
9	外部設計(3)	外部設計書を作成する		①	18	課題(2)	課題提出		①	
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計		
		100%	—	—	—	—	—	100%		
		注意事項	提出物(要件定義書、外部設計書、内部設計書、テスト仕様書)をもとに評価します。							
関連科目		ソフトウェア工学、計算機工学基礎、計算機工学応用、プログラミング言語Ⅰ、プログラミング言語Ⅱ								
使用教科書										
参 考 書		①「実践的ソフトウェア工学 第2版」 浅井治著 近代科学社								
学生へのメッセージ		座学で学んだことを実際に実践し、SE/プログラマが仕事の現場で行っている設計書の作成を通じて、今まで授業で学んだことがどういう局面で使われるのか興味を持って体験してください。本やインターネットでいくら調べても正解は出てきません。自分が学んできた知識・経験をフルに活用して、自分なりのシステム設計を行ってください。								

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履 修 区 分 ▼		単 位 数 ▼		
マイコンプログラミング実習				情報システム技術科		A		2		
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼		
菅原 智裕				時間講師室		2年後期		基礎・実技		
授業概要		マイクロコンピュータは身の回りの家庭用電気製品に内蔵され、高機能で使い勝手の良い製品として実用化されています。マイコンにも多くの種類がありますが、本講座では情報処理試験に採用されていた16ビットマイコンであるCOMETⅡマイコンを使用して、アセンブリ言語(CASLⅡ)によるプログラミングを通してマイコンの基本的機能について学びます。								
授業目標		1. COMETⅡマイコンシステムの基本的なハードウェア構成がわかること。 2. COMETⅡマイコンシステムの基本的機能がわかること。 3. COMETⅡマイコンシステムの基本機能を、実習課題を通してプログラミングできること。								
育成能力項目		グローバル力		◎	応用力			継続力		
		技術者倫理			デザイン力		○	マネージメント力		
		基礎力			コミュニケーション力			チームワーク力		
科目No.		厚生労働省基準 ▼							訓練時間	
①	区 分	系基礎実技	教 科	計算機工学実習					36	
②	区 分		教 科						0	
③	区 分		教 科						0	
授 業 計 画										
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.	
1	機械語	コンパイル後の機械語の作りを学ぶ		①	10	シフト	シフト演算を行うプログラムを学ぶ		①	
2	アセンブラ	機械語に対応するアセンブラ言語の仕様について学ぶ		①	11	スタック	スタック操作、コール、リターン命令		①	
3	CASL	CASLⅡシミュレーターの利用法		①	12	入出力	文字の定義と入出力		①	
4	アセンブラ命令	主要なアセンブラ命令の働きを理解する		①	13	命令組み合わせ	いろんな命令を組み合わせたプログラミングを行う		①	
5	転送	転送命令のプログラムを学ぶ		①	14	命令組み合わせ	いろんな命令を組み合わせたプログラミングを行う		①	
6	算術加算	算術、論理加算を行うプログラムを学ぶ		①	15	演習(1)	演習問題1		①	
7	分岐	分岐を行うプログラムを学ぶ		①	16	演習(2)	演習問題2		①	
8	比較	比較命令を使うプログラムを学ぶ		①	17	演習(3)	演習問題3		①	
9	論理演算	論理演算を行うプログラムを学ぶ		①	18	定期試験	筆記試験		①	
評価方法と 評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計		
		—	—	—	—	—	100%	100%		
		注意事項								
関連科目		プログラミング言語Ⅰ・Ⅱ、プログラミング言語実習Ⅰ・Ⅱ、計算機工学基礎、論理回路実習								
使用教科書		①自作テキスト								
参 考 書		①「CASLⅡ」 福嶋宏訓著 新星出版社 ②「マイコン入門講座」 大須賀威彦著 電波新聞社								
学生への メッセージ		身の周りには携帯電話、ゲーム機、家電製品などのマイクロコンピュータが組み込まれた様々な電子装置が使われています。これらの機器に組み込まれているマイコンのモデルであるCOMETⅡを通して、マイコンの仕組みを理解します。このような技術の基礎的な技術要素を習得することは、将来の組込技術者(ハード・ソフト)になるための第一歩です。課題ごとにプログラム設計、プログラミング、動作確認を行いますので、実学一体の楽しんで取り組める授業です。								

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼		
クラウドシステム			情報システム技術科		B	2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼		
坂田 聡			教員室Ⅱ		2年後期	専門・学科		
授業概要		クラウドの概念を理解し、提供される特有の機能を学びます。技術基盤となる仮想化について理解し、クラウドコンピューティングのメリット・デメリットを学びます。また、SaaSサービスを利用してノーコードアプリ開発実習を行います。作成したオリジナルアプリについて、学生間で相互評価を行います。						
授業目標		1. クラウドの概念が理解できる。 2. クラウドコンピューティングのメリットが理解できる。 3. クラウドサービスを使ったアプリ開発ができる。						
育成能力項目		グローバル力	◎	応用力		継続力		
		技術者倫理		デザイン力	○	マネージメント力		
		基礎力	○	コミュニケーション力		チームワーク力		
科目No.	厚生労働省基準 ▼						訓練時間	
①	区 分	専攻学科	教 科	データ通信工学			36	
②	区 分		教 科				0	
③	区 分		教 科				0	
授 業 計 画								
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略	科目No.
1	ガイダンス	全体説明および実施方法の確認		①	10	アプリ開発(1)	AppSheetによるサンプルアプリ開発	①
2	クラウドの基礎知識(1)	クラウドの概念や要素技術		①	11	アプリ開発(2)	SaaSによるアプリ開発実習	①
3	クラウドの基礎知識(2)	クラウドに関連する幅広い基礎知識		①	12	アプリ開発(3)	SaaSによるアプリ開発実習	①
4	クラウドの基礎知識(3)	クラウドコンピューティング環境に関するセキュリティ要件と課題		①	13	アプリ開発(4)	SaaSによるアプリ開発実習	①
5	クラウドを実現する技術(1)	サーバ仮想化		①	14	アプリ開発(5)	SaaSによるアプリ開発実習	①
6	クラウドを実現する技術(2)	パブリッククラウド		①	15	アプリ開発(6)	発表会、相互評価(1)	①
7	クラウドを実現する技術(3)	プライベートクラウド		①	16	総復習		①
8	クラウド活用例(1)	BtoC分野、エンタープライズ分野		①	17	定期試験		①
9	クラウド活用例(2)	公共分野、新事業分野		①	18	総括	定期試験の解説	①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計
		—	—	60%	—	—	40%	100%
		注意事項						
関連科目		ネットワーク工学、ネットワーク工学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ネットワークプログラミング、情報セキュリティⅠ・Ⅱ						
使用教科書								
参 考 書		①「CentOS7で作るネットワークサーバ構築ガイド」サーバ構築研究会著 秀和システム						
学生へのメッセージ		クラウド上での開発が多くなっています。クラウドシステムの概念を理解し、クラウドサービスを利用したアプリ開発を行うことで理解を深めます。						

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼	
情報セキュリティⅡ				情報システム技術科		B		2	
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼	
未定				教員室Ⅱ		2年後期		専門・学科	
授業概要		インターネットと情報技術の発展・普及につれて、新たな危険性が潜んでいます。コンピュータウイルスやスパムメール、DoS攻撃、不正侵入、電子詐欺、プライバシー侵害などが頻繁に発生しています。これらの危険性を回避・防止するため、情報セキュリティが非常に重要な課題になっています。本科目は、情報セキュリティ基本技術の暗号技術、認証技術について学習し、情報社会におけるセキュリティ対策・技術を身に着けます。							
授業目標		1. 情報セキュリティの基本となる暗号技術が理解できる。							
		2. 情報セキュリティの認証技術を把握できる。							
		3. 共通鍵と公開鍵が理解できる。							
育成能力項目		グローバル力		◎	応用力			継続力	
		○ 技術者倫理			デザイン力			マネージメント力	
		○ 基礎力			コミュニケーション力		○	チームワーク力	
科目No.		厚生労働省基準 ▼							訓練時間
①	区 分	専攻学科	教 科	オペレーティングシステム					36
②	区 分		教 科						0
③	区 分		教 科						0
授 業 計 画									
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.
1	情報セキュリティ技術概要	暗号技術、認証技術、セキュア技術、セキュリティマネジメント		①	10	セキュリティシステム戦略	ITガバナンス、セキュリティインシデントへの対応		①
2	人的対策	人的・物理的セキュリティ対策、セキュリティ教育		①	11	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント手法、PMBOK		①
3	情報の保護	知的財産権と個人情報保護		①	12	企業の活動と統治	財務・会計、JIS Q 20000		①
4	セキュリティ関連法規	コンピュータ犯罪関連の法規、サイバーセキュリティ基本法		①	13	演習(1)	情報セキュリティマネジメントの問題を解く		①
5	ガイドライン	電子文書関連の法規、各種標準化団体と国際規格		①	14	演習(2)	情報セキュリティマネジメントの問題を解く		①
6	ネットワーク	ネットワークの基礎、TCP/IP、無線LAN		①	15	演習(3)	情報セキュリティマネジメントの問題を解く		①
7	データベース	データベースのモデル、DBMS		①	16	演習(4)	情報セキュリティマネジメントの問題を解く		①
8	システム戦略	情報システム戦略の策定、共通フレームの開発プロセス		①	17	定期試験			①
9	システムの構成要素	RASIS、バックアップ、ストレージ技術		①	18	総復習	情報セキュリティマネジメントのキーワード総復習		①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計	
		—	80%	—	—	—	20%	100%	
		注意事項							
関連科目		ネットワーク工学実習Ⅰ、ネットワーク工学実習Ⅱ、ネットワーク工学実習Ⅲ、情報セキュリティⅠ、ネットワーク工学							
使用教科書		「情報セキュリティマネジメント合格教本」、岡嶋裕史著、技術評論社							
参 考 書		①「情報セキュリティの基本と仕組み」 相戸 浩志 著 秀和システム ②「情報セキュリティ教科書」、高田 南、東京電気大学出版局							
学生へのメッセージ		情報セキュリティの確保はネットワーク環境が便利になった現在、大きなテーマとなっています。これからの情報処理関係の技術者には特に必須知識となります。授業時間以外でも新聞などに目を通し、いろんなセキュリティ関連情報を吸収してください。							

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼		
画像処理工学			情報システム技術科		A	2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼		
未定			教員室Ⅱ		2年後期	専門・学科		
授業概要		現在、デジタル画像処理技術は各種産業、医用、映像メディアなど様々な分野に応用されています。コンピュータの処理能力の進歩と共にその重要性は益々高まっています。本講義では画像処理工学の基本知識の習得を目的とし、その基本原理やアルゴリズムを中心に学びます。						
授業目標		1. 画像の標本化、量子化、カラー画像、フォーマットを理解し、説明できる。 2. 画質改善、2値画像処理、特徴抽出を理解し、説明できる。 3. 画像の符号化、パターンマッチングのアルゴリズムを説明できる。						
育成能力項目		グローバル力	◎	応用力	継続力			
		技術者倫理		デザイン力	○	マネージメント力		
		基礎力	○	コミュニケーション力		チームワーク力		
科目No.	厚生労働省基準 ▼					訓練時間		
①	区 分	専攻学科	教 科	図形処理工学		36		
②	区 分		教 科			0		
③	区 分		教 科			0		
授 業 計 画								
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目 内容概略 科目No.			
1	画像処理総論	画像処理の歴史、役割等を学ぶ		①	10 画像の圧縮符号化	① 階調画像の圧縮符号化、動画像の圧縮符号化、ランレングス符号化法、ベクトル量子化法		
2	画像の取り扱い	本講義での画像処理の手法について学ぶ		①	11 電子透かし	① 2値画像への文字列混入、ビットプレーン		
3	階調補正	濃度ヒストグラム、ヒストグラムの線形変換、変換グラフを用いた階調変換		①	12 2値画像処理	① 輪郭線追跡アルゴリズム、Opening・Closing処理、ラベリング処理		
4	2値化処理(1)	ヒストグラム、ドットパターン法		①	13 立体・3次元環境認識	① 領域分割、領域成長法、ステレオマッチング		
5	2値化処理(2)	組織的ディザ法、誤差拡散法		①	14 動画像処理	① フレーム間差分、オプティカルフロー、勾配法		
6	空間フィルタリング(1)	Sobelフィルタ、ラプラシアンフィルタ		①	15 文字・図形認識	① 特徴量と特徴空間、パターン認識、機械学習		
7	空間フィルタリング(2)	Robertsフィルタ、Forsenフィルタ、レンジフィルタ		①	16 画像の認識	① 画像特徴量、クラス分類、HOG特徴、認識率		
8	周波数フィルタリング(1)	周波数スペクトル		①	17 定期試験	① 用語、理論の確認試験		
9	周波数フィルタリング(2)	高速フーリエ変換		①	18 カラー画像処理	① カラー画像の取り扱い方		
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計
		—	—	—	—	60%	40%	100%
		注意事項						
関連科目		図形処理工学、図形処理工学実習、画像処理工学実習、基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱ、応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ、プログラミング言語Ⅰ、プログラミング言語Ⅱ						
使用教科書		①「C言語による画像処理プログラミング入門 ―サンプルプログラムから学ぶ―」 長尾智晴 著 朝倉書店						
参 考 書		①「画像処理の基本技法」 中山、横井、長谷川、興水 共著 技術評論社 ②「C言語で学ぶ実践画像処理」 八木伸行他 著 オーム社						
学生へのメッセージ		この講義は、十分な復習を行い、理解が浅いと思われる分野については、随時、講師に質問して下さい。加えて、復習だけではなく、予習を必ず行って下さい。予習・復習の目安として 60時間自学を行って下さい。						

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼		
ネットワーク工学実習Ⅲ				情報システム技術科		A		2		
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼		
坂田 聡				教員室Ⅱ		2年後期		専門・実技		
授業概要		メールの送信を行うSMTPサーバの構築を行い、メールの受信ができるPOPサーバの構築を行う。また、暗号化通信を行うことができるように電子証明書を作成し、通信データをキャプチャして暗号化を確認できる。								
授業目標		1. SMTPサーバの構築ができる。 2. POPサーバの構築ができる。 3. 暗号化通信ができる。								
育成能力項目		グローバル力		◎	応用力			継続力		
		技術者倫理			デザイン力			マネジメント力		
		基礎力		○	コミュニケーション力		○	チームワーク力		
科目No.		厚生労働省基準 ▼							訓練時間	
①	区 分	専攻実技	教 科	ソフトウェア工学実習					36	
②	区 分		教 科						0	
③	区 分		教 科						0	
授 業 計 画										
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.	
1	SMTPサーバ	SMTPサーバの設定ファイルの編集		①	10	ファイアウォール	メールの送受信に必要な設定を行う		①	
2	DNS連携	SMTPサーバとDNSサーバが連携できるようにする		①	11	受信メールの暗号化(1)	受信メールをWindowsに暗号化してダウンロードおよびキャプチャして確認(1)		①	
3	メールの送信(1)	異なるネットワークのメールサーバにメールを送信できるように設定する		①	12	受信メールの暗号化(2)	受信メールをWindowsに暗号化してダウンロードおよびキャプチャして確認(2)		①	
4	メールの送信(2)	異なるネットワークのメールサーバにメールを送信できるように設定する		①	13	送信メールの暗号化(1)	送信メールをSMTPで送る際に暗号化し、キャプチャして確認(1)		①	
5	POPサーバ(1)	POPサーバのインストール		①	14	送信メールの暗号化(2)	送信メールをSMTPで送る際に暗号化し、キャプチャして確認(2)		①	
6	POPサーバ(2)	POPサーバの設定ファイルの編集		①	15	メールサーバ間暗号化(1)	異なるネットワークに属するSMTPサーバ間で暗号化通信ができるよう設定(1)		①	
7	メールの受信	POPサーバのメールをWindowsへダウンロードする		①	16	メールサーバ間暗号化(2)	異なるネットワークに属するSMTPサーバ間で暗号化通信ができるよう設定(2)		①	
8	暗号化通信(1)	暗号化通信に必要な電子証明書の作成(SSLサーバ証明書)(1)		①	17	課題	課題提出		①	
9	暗号化通信(2)	暗号化通信に必要な電子証明書の作成(SSLサーバ証明書)(2)		①	18	定期試験	筆記試験		①	
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計		
		—	—	—	60%	10%	30%	100%		
		注意事項								
関連科目		ネットワーク概論、ネットワーク工学、ネットワーク工学実習Ⅰ・Ⅱ、ネットワークプログラミング、情報セキュリティⅠ・Ⅱ、クラウドシステム、ネットワーク施工実習								
使用教科書										
参 考 書		①「DNS&BIND」 Paul Albiz著 オライリー・ジャパン								
学生へのメッセージ		情報関連の企業に就職したらサーバを構築する仕事を任される機会は必ずと言っていいほどあります。実際に使えるシステムを作ることは楽しいことです。実機を使って行う貴重な実習です。								

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼
画像処理工学実習			情報システム技術科		A	2
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼
未定			教員室Ⅱ		2年後期	専門・実技
授業概要		本実習では、C言語によるプログラムを作成し実際にコンピュータ上で動作させることで、画像処理工学で学んだ画像処理の基本原理やアルゴリズムの理解を深めます。画像をコンピュータの画面上に表示させることから始まり、画質改善、特徴抽出、パターンマッチングなどの基礎技術を習得します。				
授業目標		1. 画像のフォーマットを理解し、コンピュータ上に画像を表示できる。 2. 画像変換、特徴抽出のプログラムを作成できる。 3. パターンマッチングによる物体抽出プログラムを作成できる。				
育成能力項目		グローバル力	◎	応用力		継続力
		技術者倫理		デザイン力	○	マネジメント力
		基礎力		コミュニケーション力		チームワーク力
科目No.	厚生労働省基準 ▼					訓練時間
①	区 分	専攻実技	教 科	図形処理実習		36
②	区 分		教 科			0
③	区 分		教 科			0
授 業 計 画						
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目	
内容概略					内容概略	
1	画像処理総論	画像処理の歴史、役割等を学ぶ		①	10	画像の圧縮符号化 階調画像の圧縮符号化、動画像の圧縮符号化、ランレングス符号化法、ベクトル量子化法
2	画像の取り扱い	本講義での画像処理の手法について学ぶ		①	11	電子透かし 2値画像への文字列混入、ビットプレーン
3	階調補正	濃度ヒストグラム、ヒストグラムの線形変換、変換グラフを用いた階調変換		①	12	2値画像処理 輪郭線追跡アルゴリズム、Opening・Closing処理、ラベリング処理
4	2値化処理(1)	ヒストグラム、ドットパターン法		①	13	立体・3次元環境認識 領域分割、領域成長法、ステレオマッチング
5	2値化処理(2)	組織的ディザ法、誤差拡散法		①	14	動画画像処理 フレーム間差分、オプティカルフロー、勾配法
6	空間フィルタリング(1)	Sobelフィルタ、ラプラシアンフィルタ		①	15	文字・図形認識 特徴量と特徴空間、パターン認識、機械学習
7	空間フィルタリング(2)	Robertsフィルタ、Forsenフィルタ、レンジフィルタ		①	16	画像の認識 画像特徴量、クラス分類、HOG特徴、認識率
8	周波数フィルタリング(1)	周波数スペクトル		①	17	定期試験 用語、理論の確認試験
9	周波数フィルタリング(2)	高速フーリエ変換		①	18	カラー画像処理 カラー画像の取り扱い方
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他
		—	—	—	—	60%
		注意事項				
関連科目		図形処理工学、図形処理工学実習、画像処理工学、基礎数学Ⅰ、基礎数学Ⅱ、応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ、プログラミング言語Ⅰ、プログラミング言語Ⅱ				
使用教科書		①「C言語による画像処理プログラミング入門 ―サンプルプログラムから学ぶ―」 長尾智晴 著 朝倉書店				
参 考 書		①「画像処理の基本技法」 中山、横井、長谷川、興水 共著 技術評論社 ②「C言語で学ぶ実践画像処理」 八木伸行他 著 オーム社				
学生へのメッセージ		この実習は、十分な復習を行い、理解が浅いと思われる分野については、随時、講師に質問して下さい。加えて、復習だけではなく、予習を必ず行って下さい。予習・復習の目安として 60時間自学を行って下さい。				

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼		単位数 ▼	
先端情報工学実習				情報システム技術科		B		2	
担 当 教 員				代表教員室 ▼		開 講 期 ▼		区 分 ▼	
情報システム技術科 全員				教員室Ⅱ		2年後期		専門・実技	
授業概要		本実習では、情報システム技術科教員の専門分野及び、最新技術に関して、オムニバス形式で講義・実習を行います。							
授業目標		1. 情報系分野における最新技術の動向を説明できる。 2. 情報系の最新技術の一部を組み込んだプログラムを作成できる。 3.							
育成能力項目		グローバル力	○	応用力	○	継続力			
		技術者倫理	◎	デザイン力	○	マネージメント力			
		基礎力	○	コミュニケーション力	○	チームワーク力			
科目No.	厚生労働省基準 ▼							訓練時間	
①	区 分	専攻実技	教 科					36	
②	区 分		教 科					0	
③	区 分		教 科					0	
授 業 計 画									
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略		科目No.
1	アルゴリズム(1)	アルゴリズムに関する技術紹介と研究紹介		①	10	人工知能(1)	ニューラルネットワークに関する技術紹介と研究紹介		①
2	データ工学	データ工学に関する技術紹介と研究紹介		①	11	組み込み技術	マイコン等の組み込みプログラミングに関する技術紹介と研究紹介		①
3	ネットワーク(1)	ネットワークに関する技術紹介と研究紹介		①	12	コンピュータビジョン(2)	顔画像認証等に関する技術紹介と研究紹介		①
4	ネットワーク(2)	無線通信システムに関する技術紹介と研究紹介		①	13	人工知能(2)	機械学習に関する技術紹介と研究紹介		①
5	コンピュータビジョン(1)	コンピュータビジョンに関する技術紹介と研究紹介		①	14	ソフトウェア工学	ソフトウェア工学に関する技術紹介と研究紹介		①
6	アルゴリズム(2)	アルゴリズムに関する技術紹介と研究紹介		①	15	音声情報処理	音声情報処理に関する技術紹介と研究紹介		①
7	半導体(1)	半導体技術に関する技術紹介		①	16	信号処理	信号処理に関する技術紹介と研究紹介		①
8	半導体製造プロセス設計	半導体製造プロセス設計に関する技術紹介		①	17	データ処理	データサイエンスに関する技術紹介と研究紹介		①
9	ネットワーク(3)	ネットワークプロトコルに関する技術紹介と研究紹介		①	18	レポート作成	本実習をまとめたレポートの作成		①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計	
		100%	—	—	—	—	—	100%	
		注意事項							
関連科目		キャリア形成、職業能力基礎演習、先端情報工学実習							
使用教科書									
参 考 書		①「マイロード21」 就職指導研究会 著 実教出版 ②「就職四季報」 東洋経済新報社							
学生へのメッセージ		この実習は、最新の技術を知ることができます。今まで学んできた基礎的情報技術を発展した内容を知ることができ、卒業研究につながる重要な科目です。加えて、社会人になる前に世の中の最新の技術を知っておくことで情報技術が今後どのような方向に向かっているのかも知ることができます。しっかりと予習や復習を行ってください。							

科 目 名 ▼			対 象 群 / 科 名 ▼		履修区分 ▼	単位数 ▼		
人工知能技術Ⅲ			情報システム技術科		B	2		
担 当 教 員			代表教員室 ▼		開 講 期 ▼	区 分 ▼		
未定			教員室Ⅱ		2年後期	専門・学科		
授業概要		本科目は、Pythonを用いて、AI、特に機械学習をプログラミングし実践的に学びます。 Pythonの基本文法、プログラミング手法などの基礎から学ぶことができます。 機械学習の基礎的理解から様々な手法までを学び、実例を通じて、多くのプログラムを作成、実行することで、理解を深めることができます。						
授業目標		1. 機械学習を含んだプログラムを作成できる。 2. クラスタリング処理を含んだプログラムを作成できる。 3. 画像処理を含んだプログラムを作成できる。						
育成能力項目		グローバル力	◎	応用力	○	継続力		
		技術者倫理		デザイン力		マネージメント力		
		基礎力		コミュニケーション力		チームワーク力		
科目No.	厚生労働省基準 ▼						訓練時間	
①	区 分	専攻学科	教 科	図形処理実習			36	
②	区 分		教 科				0	
③	区 分		教 科				0	
授 業 計 画								
授業項目		内容概略		科目No.	授業項目		内容概略	科目No.
1	ガイダンス	人工知能技術Ⅱの復習		①	10	パターンマイニング(2)	連想規則抽出	①
2	深層学習(1)	深層学習とは、DNNのモデル		①	11	パターンマイニング(3)	FP-Growthアルゴリズム、推薦システムにおける学習	①
3	深層学習(2)	多階層ニューラルネットワーク		①	12	系列データの識別	ラベル系列に対する識別、CRF、HMM	①
4	深層学習(3)	畳み込みネットワーク、リカレントニューラルネットワーク		①	13	半教師あり学習(1)	自己学習	①
5	アンサンブル学習(1)	バギング、ランダムフォレスト		①	14	半教師あり学習(2)	共学習、YATSIアルゴリズム、ラベル伝搬法	①
6	アンサンブル学習(2)	ブースティング、勾配ブースティング		①	15	強化学習	マルコフ決定過程による定式化、TD学習	①
7	モデル推定(1)	クラスタリング		①	16	総復習	レポート等の対応	①
8	モデル推定(2)	異常検出、確率密度推定		①	17	期末試験	筆記試験	①
9	パターンマイニング(1)	頻出項目抽出		①	18	講評	期末試験の解説	①
評価方法と評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習	実 技	その他	定期試験	合 計
		—	—	—	—	—	100%	100%
		注意事項						
関連科目		ネットワークプログラミング、図形処理工学、図形処理工学実習、画像処理工学、画像処理工学実習、データリテラシ						
使用教科書		「フリーソフトではじめる機械学習入門」 荒木雅弘 森北出版						
参 考 書		「Pythonで動かして学ぶ！あたらしい機械学習の教科書」 伊藤 真 翔泳社						
学生へのメッセージ		この講義は、十分な復習を行い、理解が浅いと思われる分野については、随時、講師に質問して下さい。加えて、復習だけではなく、予習を必ず行って下さい。予習・復習の目安として60時間の自学を行って下さい。						

科 目 名 ▼				対 象 群 / 科 名 ▼				履修区分 ▼		単位数 ▼			
卒業研究				Ⅰ 群[機械]・Ⅱ 群[電子・情報]				A		12			
担 当 教 員				代表教員室 ▼				開 講 期 ▼		区 分 ▼			
各科教員								2年後期		専門・実技			
授業概要		これまでに修得してきた知識と技術を基礎として、与えられたテーマについて、問題点の検討から解決まで自主的に取り組みます。これを通じて発想力、設計製作能力、日程管理能力、チームプレイ能力および得られた成果を説明する能力を身につけます。											
授業目標		1. 取組む課題に対して、その解決のために必要な情報を収集する能力を身に付けることができる。											
		2. 取組む課題に対する自分なりの解決策を提案することが理解できる。											
		3. 課題に対する解決案を実行できる。											
育成能力項目		○	グローバル力			◎	応用力			○	継続力		
		○	技術者倫理			○	デザイン力			○	マネージメント力		
		○	基礎力			○	コミュニケーション力			○	チームワーク力		
科目No.		厚生労働省基準 ▼									訓練時間		
①	区 分	専攻実技	教 科								216		
②	区 分		教 科								0		
③	区 分		教 科								0		
授 業 計 画													
授業項目			内容概略			科目No.	授業項目			内容概略			科目No.
1	計画(1)	ガイダンスおよび研究テーマの決定			①	10	調査(4)	研究テーマに関連する情報収集			①		
2	計画(2)	ガイダンスおよび研究テーマの決定			①	11	基礎準備(1)	研究テーマに関連する基礎技術の習得			①		
3	検討(1)	研究テーマに関する問題点の把握			①	12	基礎準備(2)	研究テーマに関連する基礎技術の習得			①		
4	検討(2)	研究テーマに関する問題点の把握			①	13	基礎準備(3)	研究テーマに関連する基礎技術の習得			①		
5	検討(3)	研究テーマに関する問題点の把握			①	14	基礎準備(4)	研究テーマに関連する基礎技術の習得			①		
6	検討(4)	研究テーマに関する問題点の把握			①	15	基礎実験(1)	研究テーマに関連する基礎的実験			①		
7	調査(1)	研究テーマに関連する情報収集			①	16	基礎実験(2)	研究テーマに関連する基礎的実験			①		
8	調査(2)	研究テーマに関連する情報収集			①	17	基礎実験(3)	研究テーマに関連する基礎的実験			①		
9	調査(3)	研究テーマに関連する情報収集			①	18	基礎実験(4)	研究テーマに関連する基礎的実験			①		
評価方法と 評価基準 ▼		レポート	中間試験	演 習		実 技		その他	定期試験	合 計			
		—	—	—		50%		30%	20%	100%			
		注意事項											
関連科目		全科目											
使用教科書		適宜											
参 考 書		適宜											
学生への メッセージ		卒業研究では、研究の目的を十分理解しておくことが大切です。目的がしっかりしていなければ、問題を解決することができません。指導教員から指示を促されることのない、自主的な推進を望みます。指導教員とともによい研究成果をあげてください。											